

幼兒の教育



第 一 四 卷 第 五 月 號 第 五 號

東京女子高等師範學校內

日本幼稚園協會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 (再版)

觀察の實際

菊判 一三〇頁
定價 金壹圓
送(東京) 金六錢
料(市内) 金九錢
其他

○觀察の實際については何か参考したいといふ御希望は皆様から常に伺ふ所、本書はその爲に最も適切親切なる書である。

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集 (四版)

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際 (四版)

幼兒の教育 (月刊)

菊版三五〇頁 定價金壹圓五拾錢
送(東京) 金六錢
料(市内) 金九錢
其他
地方(北海道・臺灣・朝鮮・滿洲) 金拾五錢
樺太

定價 金壹圓
送料 金六錢

一ヶ月 金參拾五錢 送料金一錢
一ケ年 金四圓貳拾錢 送料共

家の教育

(五月號)

農・山・漁村の
保育園號

一部金十錢(郵稅共)
一ヶ年前金壹圓也
送金は振替口座
東京一四〇八番へ御拂込の事

農・山・漁村の保育園 托兒所に唯一の手引書

定價金八十錢也
送料六錢

簡易施設 保育の實際

序論

一、簡易保育所の目的
二、斯うありたい各種の簡易保育施設
三、隣組幼児園
四、移動保育園
五、林間保育園

一、農繁期保育所の新しい提唱
二、臨海保育園
三、美しき心の故郷を育てよ
四、健康であれ
五、心の健康

第二編 保育原則

一、正しい幼児保育観
二、國民的良習慣の下の芽
三、科學の芽
四、各感官の訓練
五、幼兒の心理發達
六、幼兒の心理發達
七、幼兒の心理發達

一、健康の場
二、室内の場
三、三合一の生活
四、保育の場
五、三合一の生活
六、保育の場
七、三合一の生活

第三編 保育の實際

一、短い日に多くの望む
二、心掛けておく主な事項
三、保育の實際
四、家庭の信頼
五、兒童の歡び

第四編 結語編

一、大に遊ばせよ
二、よき言葉
三、自然の恩物
四、一日の保育生活
五、保育の詩情
六、自由遊び
七、お昼寝
八、おやつ
九、お話し
十、お集り

一、手をやらせる幼児の取扱ひ方
二、喧嘩する子
三、泣く子
四、不潔な子
五、放尿の子
六、言葉使ひ

一、総合的保育
二、遊びの中から
三、土筆とり
四、川遊び
五、農閉期を利用して母の會を開く
六、樂しみの會
七、母性教育
八、最少限度の保育施設

一、文化の勝れた地方の幼児に即した取扱ひ
二、家庭へ保育技術が普及する様に
三、幼稚園保育所の急
四、幼稚園保育所の急
五、幼稚園保育所の急

發行所 東京市神田區一ツ橋教育館内 家教育の社

保 育 紙 芝 居

厚 生 省 後 援

★

最高權威の手のなかに珠玉集



明るく・すなほで・強い日本の子供達へ！
美しく・たのしく・健全な日本一の紙芝居を！

- ① キシャゴッコ…をちさん達の手作り汽車で遊ぶ子供達 (二十一枚)
と意地悪子供遊びの訓練。
サシヨミ枚
- ② シロイウサギ…保育所で折紙をならひますよ。兎を作りました。だのに手の汚ない子供は黒兎。子供の衛生。(十五枚)
- ③ カクレンボ…動物達のカクレンボ、熊さんは塊になつてつまらないから、蜜蜂の巣を叩きます。(十六枚)
サシヨミ枚
- ④ つばめ…つばめが春、南からやつてくる、巢を作り卵を生み、赤ちやんを育て、やがて歸つてゆく。観察と詩。(二十枚)
- ⑤ コネコチャンの車…子猫ちやんがあひるさんのお家を訪ねてゆきます。鳩や犬にじやれつかれたり、あひるさんの子供と遊んでをります。(二十枚)
- ⑥ お山のお正月…お山の動物達が「お正月」をして遊ばうとハンゴをかけて出初式をします。すると人の倒れてゐるのが見えます。(二十一枚)

全巻美麗な色刷

全六卷一組
最新刊！
（送料不要）
十圓

五月十五日より一斉發送
・申込はなるべく早く・

發行所

日本教育書劇株式會社

電話 東京一〇八〇八
振替 東京一〇八〇八

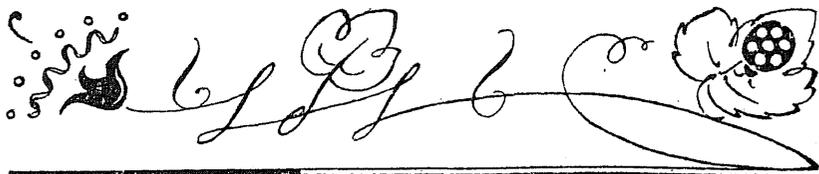
製作

日本教育紙芝居協會

東京市神田區東松下町二九

東京市神田區一ツ橋教育會館内

※ 標準型舞臺・四圓十五錢送料入 保 育 紙 芝 居 と 同 時 註 文 限 り 送 料 不 要 ※



號五第 育教の兒幼 卷一十四第

——(次 目)——

國民幼稚園の名に於て(四)	倉橋惣三(一)
子供は満三歳で一通り言葉を感じる	牛島義友(二)
幼稚園時代の子供の保健に就て	中村文彌(七)
なあぜ?	堀七藏(二)
カズノホンを中心にして鹽野圖書監修官の 教へを乞ふ座談會 (二)	小林つや江(二〇)
國民學校の音楽	上澤謙二(二四)
毎日の保育問題	岸邊福雄(三〇)
第五回フレイベル賞審査發表(幼児唱歌)	葛原しげ(三三)
審査員の方々から	倉橋惣三(三三)
當選作品	
雨の子供	井手文子(三四)
お餅搗	三谷綾子(三五)
蟻の行列	土田千草(三六)
落葉	辻村貞子(三六)
避難兒童養育所	志村貞子(三六)
動物園—誘導保育の主題—	町田行子(四一)
ならびませう	上遠文子(四一)
各地保育 會の活動 香川縣保育會概況	久住元子(四一)
月刊「幼兒の母」に就て	(四一)
幼兒の母	(四一)

倉橋惣三編 (新刊)

新體幼稚園唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金七拾錢

目 日本国旗日の丸の旗
次 道ぶしん
倉橋惣三 井倉上武士 倉橋惣三 井倉上武士 倉橋惣三 井倉上武士
作曲 作曲 作曲 作曲 作曲 作曲

いうびんやさん 倉橋惣三 弘田龍太郎 作曲
渡し場の船頭さん 倉橋惣三 中山晋平 作曲
火消しのむぢさん 倉橋惣三 小林つや江 作曲

日本幼稚園協會編 (新刊)

幼稚園新唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金五拾錢

目めだか
次 雨 杉山耕輔 小松米子 小松耕輔
作曲 作曲 作曲

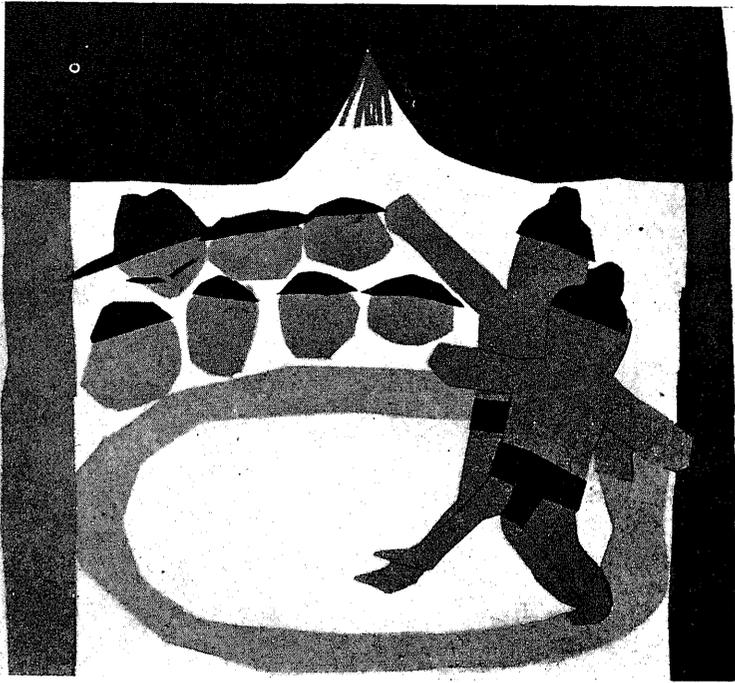
ほたる 青山綾子 小松耕輔 小松耕輔 小松耕輔
作曲 作曲 作曲 作曲 作曲

〇一九二二の新刊幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歓迎せらるゝことを期待してゐる。

六六二七一 京東營振

會協園稚幼本日

五三町塚大・川石小・京東
内園稚幼屬附師高女京東



おすまうさんは太つてゐる。その太り具合を、どう出さうか。ハツケノコッタと取り組んでゐる力を、どう出さうか。小さい工匠の指さきから、鉋を通じて、そのまるみも、つよみも、見事に出でゐる。これが切り紙の妙味である。土俵をはりながら、その上に關取を乗せながら、子どもは、自分ですまうをとつてゐるらしい。はり紙の妙味がそこにある。

(倉橋生)

國民幼稚園の名に於て

~~~~~ 國民學校の正しき連絡 ~~~~~

## 倉橋惣三

國民學校の教育の本質に對して、幼稚園の教育の本質が、國民鍊成の主要旨を、被教育生活態度の同一性にて於て、その連續性に密なるものあることは、前回に述べた通りである。こゝに就學後と就學前との國民教育の一貫が實現せられるのである。しかも、斯うした本質的連續性と共に、教育の内容的實質に就ても、そこに正しき連絡が充分考慮せられなければならない。從來と雖も、幼稚園が、小學校の教育實質に對して、假りにも矛盾するこゝなきやう注意して來たのであるが、そこには未だ充分に精細ならざるこゝろもあつたやうである。又、何んなき理解によつて、大過なきをも得てゐたであらう。こゝろが、國民學校に於ては、第一學年の教育に既に大いなる革新が行はれて居り、その根本原則に於ても、その實際に於ても、新たに研究しなければならぬのである。國民學校一學年擔任の教師諸君も、その研究に直面されてゐるのであるが、幼稚園も亦、わが幼兒達が、やがて進みゆくべき教育として、早く明らかにしてゐなければならぬのである。

但し、連絡といふことは、先きまわりして教へて置くといふやうなこゝろではない。それが、連絡の名に於て從來往々行はれた誤りであり、却つて、小學校、幼稚園の正しい連絡を妨げてさへゐたこゝろもある。即ち、こゝろでは特に正しい連絡として、周到に考慮せられる必要があるのである。その爲の第一は、各教科の方針、これはさうしても明確にして置かなければならない。第二に、各教科の實質的標準も是非、よく知つて置かなければならない。たゞせば、數をさう取扱ふか、こゝろの發音をさうきめるか、色や音の標準はさうきめるか、これ等は、國民學校の方では、しつかり定められてゐるのであり、幼稚園が之れに準據しないであらう、子ぎもにぎの位悪い影響を與へるか分らない。從來は、小學校の方で、それ程きちんしてゐなかつたこゝろもあり、謂はゞ、さう嚴密に考へなくてもよかつたのでもあるが、今度は、そんなこゝろでは許されない。そこで、國民幼稚園の保姆としては、こゝろのこゝろ大に勉強して、國民學校のこゝろを、規則も實際も、よく知らなければならぬ。幼稚園は幼稚園であるが、殊に、私の主義は私の主義をかいふのでは、その人の幼稚園であつても、國民幼稚園ではない。

# 子供は満三歳で一通り言葉を覺える

牛 島 義 友

子供は満三歳で日本語を覺えてしまふと言つたら随分突飛な意見だと思はれるかもしれない、私自身もまさか斯んな結論が現れやうとは考へて居なかつたが、實際に研究調査してみた結果、子供は満三歳で言葉の發達は一つの頂點に達すると言はなければならぬ。

子供が初めて言葉を發するのは十ヶ月頃からで、最初のお誕生日頃はまだウマ〜、ワン〜と二つか三つ位しかしやべらない、それが急激に發達し小學校入學の時には四千から五千位の語彙を持つ様になる。従來言はれて居た。併し此急激に發達する間の状態は餘り明らかにされて居らず、大體年齢と共に進歩し、一歳よりは三歳、三歳よりは四歳と言語生活は豊富になり、複雑になるを考へられて居た。

此比較的忘れられて居た時期に就いて私達は研究を試みた。此時代の言葉は全部話し言葉で、子供がしやべつたも

のを材料にして研究せねばならず、年長兒の如く讀んだり書いたりする言葉でないだけに研究は困難になる。私達は子供が自由遊びをしてる時に勝手にしやべり出した言葉を採録し、それを資料にして研究した。即ち三十分間に子供の話した言葉を全部、發音其儘に記録する事とし、満一歳から満六歳までの子供、延人數二百八十八人分の資料を得た、之は東京だけではなく全國に亘り、農村の子供も含まれて居る。

此子供達の話した言葉を其文章の構造や語彙の現れ方等から整理して行つた、先づ三十分間に話した文の數からみよう。

文の數 文章の數と言ふ語弊があるが、言ふのは子供の言葉には文章になつてないものが澤山あり、「おや犬」言つて犬がやつて來たのをつげる事なきがよくある。斯るものも一つの文と假に數へて、三十分間の平均の文の數

をしらべるに次の如くなり、満一歳児は平均六一・三で二歳、三歳となるに従ひ増加して居る、併し三歳以後は増加せず大體同様の状態に止まつて居る。

女の子はおしゃべりだと言はれて居るが、此調査からは  
計 61.3  
78.2  
96.4  
86.1  
91.1  
79.4

一歳頃は女の子の方がよく話す様であるが、其後は女の子の方が少ないのも現れて来る。

の 文の長さ 前のは一つ一つの事柄や觀念を現した文の数をみたのであるが、此文には長いものも短いものもある。智能が発達するに従つて長い

一歳児  
二歳児  
三歳児  
四歳児  
五歳児  
六歳児

をみたのであるが、此文には長いものも短いものもある。智能が発達するに従つて長い

表現をする様になるを考へられるが、此點は如何になつて居るであらうか、此文の長さをみるために、文の中の語数を數へてみた。例へば「犬が來た」は「犬が一來一來」四語に數へられるが、斯る計算をした結果は第一表の如くなり、一歳児の文は殆ど一語位で、普通一語文の時代と言はれて来る。即ち子供が「ワン」や「言ふ」一語で、「犬が來たよ」や「犬にビスケットをあげよう」等の色々な意味を持たせる時代であるが、三歳頃になるに四語文位になり、文章の形をミョのへて来る。其後は益々長い、複雑な文章の形で

話すかと言ふに必ずしもさうなつてゐない。

其他文章の構造を調べて、副文章のついた文章の數、例へば「犬が來たからあつちへ行かう」の様な複雑な文章の現

計 1.366  
2.811  
4.427  
4.508  
5.007  
4.628

れる状態をみて、一歳臺には一つもないが、二歳、三歳に増し、三歳以後は大した増加を示して居ない。

長さ 動詞の活用形 次に文章の長さや性質ばかりでなく、其中の一つ一つの語を考へてみよう。例へば動詞の活用形が如何に使はれて居るであらうか。動詞「來る」について見て

一歳児  
二歳児  
三歳児  
四歳児  
五歳児  
六歳児

も色々な活用形がある譯で、未然、連用、終止、條件、命令の活用形がある上に、複語尾がついて種々な形をこつて來る。例へば未然形は「こられる、こさせる、こぬ、こない、こよう」こなり、連用形は「きて、きた、きて」の他に「きてみる、きてちようだい」等その他の用語につらなつて複雑な形を示す。斯る種々の活用をやつてのける事は隨分面倒な事と思ふ、吾々が外國語を習つて一番六ヶ數く感じるのは動詞の活用形である、過去、過去分詞さか、人稱複數による相違を正確に使ひ分けるのは並大抵の事ではない。

此複雑な操作を子供はちやんこやつて居るであらうか。「来る」「言ふ言葉だけは言へるが、其活用は出来てないのではないか」考へられるかもしれない。併し調査の結果は此點もちやんこ満三歳位で出来てをる。

「来る、やる、見る、取る、なる、食べる、作る、持つ、乗る、寝る、泣く」の動詞について其活用形を年齢別に調べたのは次の表である。此數字は面倒な計算から出されたものであるが、年齢的發達の状態だけを讀み取つていたゞき

|     | 命令形  | 條件形  | 終止形  | 連用形  | 未然形  |
|-----|------|------|------|------|------|
| 一歳兒 | 0    | 0    | 0    | 0.36 | 0    |
| 二歳兒 | 0.04 | 0    | 1.46 | 4.44 | 0.56 |
| 三歳兒 | 0.23 | 0.04 | 2.74 | 9.25 | 3.09 |
| 四歳兒 | 0.26 | 0.04 | 2.25 | 8.34 | 2.12 |
| 五歳兒 | 0.43 | 0.24 | 2.43 | 10.1 | 3.19 |
| 六歳兒 | 0.14 | 0    | 2.81 | 6.52 | 2.62 |

度は。満一歳兒には斯る活用形は殆ど現れて居らず、連用形がほんの少し使はれて居る位である。二歳兒になるに少し現れる。三歳兒には急に増加して居る、其後は増加して居るものもあり、餘り變らないものがある。之は未然、連用と纏めた表であるが、更に複語尾のついた活用をしらべてみても、殆ど總ての活用形が満三歳になるに現れて居り、而も五、六歳兒に變らぬ割合で使用されて居る。

てにをはの使用 次に助詞に

|     | 助    | 詞   | ね    | に   | から  |
|-----|------|-----|------|-----|-----|
| 一歳兒 | 0    | 2.0 | 0.3  | 0   | 0   |
| 二歳兒 | 7.6  | 7.0 | 4.2  | 2.8 | 0.9 |
| 三歳兒 | 12.0 | 8.4 | 8.0  | 6.7 | 3.3 |
| 四歳兒 | 16.1 | 7.6 | 7.3  | 6.4 | 2.1 |
| 五歳兒 | 16.7 | 8.5 | 10.5 | 8.2 | 3.2 |
| 六歳兒 | 20.0 | 8.8 | 6.0  | 6.7 | 1.5 |

ついで調べても同様の事が言へる。外國人が日本語を話して、一番耳觸りになるのは「てにをは」が落ちたり、誤る事である。語法の異なる彼等には助詞を使ひ分ける事が非常に困難らしい。助詞は字にしては極單純なものであり、文章の中でも重要な位置を占める譯ではない。併し文章の正確な表現や、氣情や氣分を言ひ現すには助詞は最も大切な役割を占める。正しい日本語を驅使するには助詞を自由に正しく使へなければならぬ。小さな子供の話す言葉には「ワンワンあつち」式で助詞が缺けて居るが、何歳位になるに助詞が使ひこなせる様になるであらうか。子供の最も多く使用する助詞は「の」で、それに續き「よ、ね、に、が、は、て、き、も、わ、(わよ、)から、か、な、のね(のよ、へ、を、や、かな(かい)、だけ(けき)等」であるが、此中主要なもの若干について、其年齢的使用状態を表示するに上の如くなる。此表を見ても、満一歳兒は殆ど助詞を使ひ得ないが、二歳兒には少し現れ、三歳兒は急に増加してをり、而も其

後は餘り變化がない。即ち固定な助詞の使用も滿三歳になるまで一通り出来る様になり、色々な助詞を使ひ分けて居る。何十年も日本に居る西洋人がまごついてゐるにをはず、わすか三ヶ年の自然の學習の中に子供はマスターしてしまつて居る。

マスターしたと言ふは或は言ひ過ぎかもしれない、色々な助詞は使つてみても、はたして正しい、適切な助詞を使つたか否かは、此表からは判らない。併し子供の話しを調べた印象からは餘り誤つた使用はなかつた様に思ふ、一々統計は取れなかつたが、概して誤は少かつた。

片言 以上の様に言葉は豫想外に早く習得されて居るが、最後に子供の言葉に特有な片言、發音の不充分なもの、例へば、「ぬれた」を「にゆえた」「言ひ」「あら〜」を「あやあや」「言ふ」類のものは之は三歳で完成するとは言へない。今三十分間に二語だけ不完全な發音をなすとして、統計してゐる二次表の如くなる。即ち誤りが二語以下ですんで居るものゝ百分率は二歳兒では未だ一つもなく、三歳兒でも尙二七・五%に過ぎず、五歳兒で大體九〇%以上になる。故に發音が一應出来るのは少くも滿五歳にならねばならぬ、此點は今までの言語發達三歳説に當嵌まらない。

併し以上の諸種の點から考察して子供の語論が大體滿三歳で一應出来ると言つても大過なからう。

| 完成   |      | 計    |
|------|------|------|
| 男    | 女    |      |
| 0    | 0    | 0    |
| 26.7 | 28.6 | 27.5 |
| 75.0 | 38.0 | 50.0 |
| 91.6 | 100  | 95.5 |
| 80.0 | 100  | 85.0 |

二歳兒  
三歳兒  
四歳兒  
五歳兒  
六歳兒

し、又何よりも彼等がおしやべりである事を氣付くであらう。大きくなるまで無口になるであらう子供でも、彼の頃は實によくしやべつて居る、つまりぬ事、何でもない事を話題とし、何度も何度も同じ事を繰返して言つてゐるのに氣付くであらう。前の研究結果の數字は誤りでなく、尤もだに納得出来るであらう。

滿三歳と言へば普通まだ幼稚園にも行つてない時期である。此家庭の中で自然に習ひ覺える時代に言語發達の一つの頂點に達するにすれば、家庭での言語教育の重要性を痛感させられる。放任された家庭では誤つた發音や語法のままで子供は正しいと思つて覚え込むであらう。誤つた使用方を後から匡正するのは非常な努力を要する。

併しだから言つて子供の誤つた言葉を片端から訂正し

て行く様な態度では子供はいぢけてしまふし、又切角お母さんにお話しようと思つてゐる時に言葉尻をさがめられたのではないから子供でもいやになつてしまふ。親子子供の親密な心の交流を害する事なしに言語教育をなすにはどうしたらよいか。

子供は旺盛な知識慾と記憶力で色々なものゝ名前を知りたがる故に力めて親切に正確に教へてやるよ、三歳位になるまで一度聞いただけでもよく憶える。子供の發音の誤つたのは五歳頃までには正しく直る様に除々に改めてやる。併し別に誤つてゐる譯ではない子供特有の言葉、例へば犬をワン／＼と言ひ舟をギ／＼言ひ類のものは別に止めさせる必要はない、犬にワン／＼ミヌの二つの言葉がある事を覚えるのも子供の能力からみれば大した負擔ではなく、其内にはケンもドグも覚えねばならない。子供の言葉は相當尊重し大人も子供にはワン／＼言つてやり、其時には幼時を思ひ出して、無心な氣持で子供と遊んでやるがよい。

併し大人同志が話す時、或は年長の子供に話す時には完全な標準日本語を使はねばならない。さうすれば傍で聞いている幼児は自然にそれをまねて正しい言葉を用ふる様になるであらう。

過ぐる三月二十五日、東京女高師の講堂——福音堂では、東京女子高等師範學校文科、理科、家事科、體育科の他、保育實習科、附屬高等女學校及び専攻科の卒業式が並び行はれた。この式での校長下村壽一先生の告辭は、その音聲と言ひ態度と云ひ殊に文詞と云ひ、たゞ立派の一語に盡きるもので、新卒業生には勿論、こゝに列席せられた凡ての人に深い感激を與へるのが常である。今年の告辭も亦然りで、式を終へて會場を出て來た者、皆、異口同音に、今日の告辭のお立派さを讀へたのであつた。次は、告辭の中の、保育實習生に與へられた一節である。

——保育實習科の卒業生諸子 諸子の在學期間は短かりしと雖も勉勵精略く幼児保育の理論と實際とを修得せられたのであります 幼児は家の寶であり國の寶であります此の寶を愛護して幼児心身の適正なる發達を遂げしむることは教育の他の如何なる部門に比べても決して軽いものではありません 況や人的資源涵養の急今日より甚だしきはなき時世に當り職を幼稚園に奉ずると否とを問はず常に幼児保育の行者を以て自ら任じ保育報國の道を實踐し時代の要望に對應して苟も遺憾なきを期せられることを望みます——

(記者)

\*\*\*\*\*  
保

\*\*\*\*\*  
健

## 幼稚園時代の子供の保健に就て

醫學博士 中 村 文 彌

幼稚園時代の子供を丈夫に育て、やる事は、既に御習得の衛生常識を随時應用して、行けば其れで結構なのであるが、時局柄、國家の爲めにも、是非、一人の落伍者もなく身心共に潑刺された小兒を保育し上げる責任を持つて居らるゝ嫁母の方々の爲めに、今一度幼稚園時代の小兒の衛生に就て復習的に、総合的に述べて見る事も亦徒爾でないと思ふ。

先づ榮養の問題である。但し之は殆んゞ大部分家庭に於て注意せらるべき領域であるが、幼稚園に於ても機會ある毎に、園兒に對し又保護者に對し榮養に關する知識を注入すべきである。此の點、最も大切な事は好き嫌ひなく何でも喰べる言ふ事である、御承知の如く、滋養のあるのは卵である、牛乳である言つて居た時代は既に過去なのであつて、外見だけでなく眞に充實した健康兒を作り上げるためには、卵や肉を與へるのも結構であるが(幼兒では一日

一回は少くも魚さか肉さか云ふやうな動物性食品を與ふる事が大切である)、之と同時に不消化でない限り、出来る丈色々な種類の食物殊に野菜類、根菜類、果物類、海藻類を萬遍なく充分に喰べさせる事が肝要である。即ち偏食を絶対に避け殊に都會の子供に多かつた肉食偏重の弊を矯正して、野菜類其他も大いに利用する事である、かうして始めて俗に言ふ實のいつた丈夫な子供が出来上るのである。米等も配給制度になつて、以前程充分には行き互らないのであるが、子供にだけは餘り不づめな思ひをさせたくない。何う都合しても、子供には、過食にならない程度に於て、御飯等も充分與へてやる可きである。其の他食事の時間は規則正しくする事が大切である。子供の事であるから餘り無理な事は言へないが、食事の後は靜かに遊ばせるさか休息させるさかするのが理想的である。又よく嚙んで喰べる習慣をつける事が大切である。よく嚙めば嚙む程、喰べた物が細く碎かれて消化され易い状態になり、又唾液を混和

して其の中の消化液の作用を充分に受ける結果、折角喰へた物が吸収されずに出て了ふ言ふ様な事がなくなる許りでなく、よく咀嚼するに、フレッチャ―其他の人々が言ふ様に減茶に大量喰べる事が出来なくなるのである。従つて體の爲めにもよければ、大きく見たら國の食糧政策にも幾分寄與する所があるであらう。それから嘔む言つても大切なのは齒であるが故に、齒の衛生に注意すべきで、食後含嗽をする事、朝起きた時、夜寝る時には必ず齒を磨く事が肝要である。殊に齒磨きは、朝は兎も角、夜寝る時は必ず之を勵行すべきである。

第二の問題は運動である。之は既に御承知の通り、餘りいたわり過ぎぬやうにして戸外で仲々自由な運動させる事が肝腎で、そして同時に出来るだけ清浄な空氣を吸つて充分に日光々線の照射を受ける事である。空氣言ひ太陽光線言ひ極めて平凡な因子なので通常其の有難味が判らないのであるが、實際上の効果から言ふに是等は如何なる高價の薬餌にも優る健康増進要素である事を忘る可きでない。従つて近頃は大氣浴言つて、極く薄着又は真裸で戸外で遊ばせる方法——此の強壯法が盛んに行はれて居て、其の効果は冷水摩擦や冷水浴等に較べて遜色がない許りでなく、子供に取つて寧ろ自然で喜ばれて居る。(但し此の方法の實施に當つては一定の注意が必要なのであるが、之に就

て述べる事は省略する)又日光浴の大變有效な事も周知の如くである。然し何れにせよ、いくら有効だ言つた所で、應用に當つてはある程度の制限のある事に注意すべきである。例へば日光々線がよいから言つて夏場炎天下で長時間體操をしたり遊戯をしたりして居る言日射病を起して來る等である。尙幼稚園時代には姿勢の良否が決定される事が多いので、教室内でも園庭に於ても出来るだけ正しい姿勢を保たせるやう習慣づける事が大切である。正しい姿勢は人工的に否められた姿勢でなく、極く自然で而かも正しい姿勢言ふのである。

第三には休養の問題である。いくら子供は元氣だから言つて、法外な激しい運動をする言却つて體力を弱らせて病氣に罹り易くなるので、此の點充分注意しなければならぬ。又通常の運動でも、時々適度の休養を行つて力を養ふ事に留意すべきである。殊に小兒では充分な睡眠を取らなくてはいけない。幼稚園時代の子供の生理的睡眠時間は略々十一時間から十二時間位である。大體之に近い程度の睡眠を取らせるがよい。之と同時に子供は、是非此の時代から早寝早起の良習をつけさせなければならぬ。従つて一例を挙げれば、午後七時か七時半に就床して午前六時半に起床し、都合で晝寝を一時間位してもよい事になる。

第四は衣服の問題である。之は勿論綺羅を飾る必要はな

い。然し清潔でなければならぬ。殊に肌着は常に清潔でなければいけない。元來衣服殊に肌着は何時も乾いて居り空氣の流通のよい事が第一條件である。肌着が汗や垢で濕つて來るに、空氣の流通が悪くなり、汗をかいても充分之を吸収する事が出來ず水分が多くデメデメして居る結果、布の保溫力が減退して來るに同時に、水分の蒸發に依て熱を奪はれるので、到つて非衛生的である。殊に幼稚園の子供のやうに晝間盛んに活動する場合又は風邪氣味其他で入浴の出來ない場合には、特別に肌着、パンツ等は清潔なものと同様に交換してやる可きである。それから肌着は晒木綿が最もよいのであるが、幼稚園時代の子供ではメリアスでも結構である。「ス、フ」は冷却率が割合に高いので晒木綿等と同列に論ずる事は出來ないが、非常時下では之を應用するのも止むを得まい。但し「ス、フ」でも織物の織方次第で保溫力は更に大にする事が出來ると思はれるので、晒木綿に遜色ないものも、其の内出來てくるであらうと思ふ。尙周知の如く肌着としては毛製のものは絶対に不適當である。殊に「ネル」は空氣の流通が悪く又發汗した場合には汗の吸収が不良なので使用してはいけない。次に着物は出來るだけ薄着にすべきである。勿論虛弱な子供では餘り薄着をした爲めに感冒に罹つたり肺炎を起して來たりする事のあるのは事實であるが、いつれかと言ふに、之を反對

に厚着の爲めに皮膚の抵抗力が弱められ風邪を引き易くなり、又厚着をして汗をかくて其の結果風邪を引くと言ふ様な場合の方が多いものである。従つて不斷は成る丈け薄着をして而かも外氣の溫度の變化に依て迅速適當に着物を厚くしてやつたり更に薄くしてやつたりする事が大切である。着物の調節は下着、肌着では一々面倒であるから、スエター、上着、羽織等で加減してやる方が簡單である。但し既に盛んに汗をかくて居る時に急に上着を取つてやる事は慎しむべきで、かふいふ事をすると急に汗が蒸發して皮膚が冷へて風邪を引く結果になるので、かゝる場合には、屋内の風の來ない所で裸かにして手拭かタオルで手早く汗をよく拭ひ取つて新しい肌着に換へてやるか、でなければ上着は取らず寧ろ其の儘で置くがよい。そして充分肌着に汗を吸収させ皮膚も乾き又肌着も乾燥してから始めて上着を取つてやるがよい。

第五に心掛くべきは、此の時期の子供に於ては、殊に體の何の場所も何時も清潔に保つ事である。垢が溜るに此の爲めに皮膚の種々の機能が圓滑に行かないで、色々な病氣の原因となつて來る。殊に幼稚園時代の小兒は、あはれ方が激しいので汗をかき易く泥や埃にまみれる事が多い。従つて此の時期の子供は健康保持の點から言つても入浴が大切である。

第六には消極的な事であるが、傳染病に罹らない様に豫防手段を充分に講ず可きである。大抵の傳染病は子供が小さければ小さい程、経過が悪いのであるが、殊に赤痢、疫痢、猩紅熱、デフテリー等は幼稚園時代の子供が罹患し易く而かも一旦罹患したら病勢も重い事が多い。又大抵一生に一度は罹る言はれて居る百日咳、麻疹の様な疾患でも年長になればなる程経過がよいので、何れ罹るにしても園児殊に年少の園児には罹患させない様に注意してやらなければならぬ。

幼稚園には多數の子供が集るから、一人の子供が傳染病に罹る之がドンドン傳播蔓延する恐れのある事は當然である。之は麻疹か、百日咳か、耳下腺炎か、流行性感冒か、水痘さかの流行時に屢々見られる事實である。従つて子供が傳染病であり又それらしかつたら此方から頼んでも休んで貰ふ方が理窟である。歐米の大部分で、又本邦でも一部の學校では傳染病は缺席として取扱はないのであるが、之も亦一理のある事である。猩紅熱にせよデフテリーにせよ本人が辛くて何うしても休まずには居られないのは通常一週間か、せいぜい二週間位の事で、其の後は殆んど健康時と變らず、只他に傳染しないやうに已むなく隔離され缺席して居る場合が多い。之と同様に、總べての傳染病患兒は、少しでも危険のある間は、出来る丈長く休んで呉れた方が幼稚園の他の子供に取つて幸である。流行

時には疑ひのある子供も二三日休んで貰つた方がよい。そして其の後確かに罹患して居ないのを見定めてから出席して呉れるよよい譯である。此の様な意見は、一見非常に消極的に見えるのであるが、園兒全體の能率を高める意味に於ては頗る積極的なものである。此の際既に病氣になつて了つた子供は仕方ないとして、其の他の子供は、一人でも多く、流行病に罹らずに豫定通り完全な教育を受け得た方がよいからである。大抵一生に一度は罹る病氣にしても、罹患發病の時期を、罹つても安全な年長兒期にずらす事も亦國策に沿ふ方法であるやうに思ふ。従つて傳染病の際に「早く出席するやうに」を無理に園兒の出席を促すのは、假令其の患兒には夫れ程障礙がなかつたにしても、他の園兒に及ぼす災禍から考へて、換言すれば幼稚園全體から考へて取るべき策ではない。

其他周知の如く、傳染病の殆ん大部分は口を通して感染して來る事が多いので、食事前には必ず手指を丹念に洗ふ事、又外から歸つて來た時も、必ず手を洗ふと共によく合嗽する事を忘るべきでない。之は到つて常識的な事であるが根本的な豫防手段で、かう言ふ方面の習慣も是非幼稚園時代に鼓吹して置いていたゞき度いものである。以上述べ來つた所は全く平凡で大部分は既に御存じの事と思はれるが、是を充分咀嚼玩味して實行に移さるれば、幼兒の健康保持並びに推進に對して大過なきを得るに信ずる次第である。

# な あ ぜ ？

(一)

東京女子高等師範學校附屬國民學校主事

堀 七 藏

## 一、はしがき

十文字幼稚園主任保姆留岡さんから「なあぜ？」といふ子供の疑問を八十八題御提出になりました。この大部分は幼稚園幼児から出た疑問ではなく、幼児を持てる母親から提出せられたものであるやうに考へられます。一體幼児に對しての解答は大人に對しての解答とは自ら異なるのでありますからこんな場合に解答すればよろしいか迷ふのであります。しかし私は若しかゝる疑問を提出せられた親としての立場で解答することにいたします。それで對手は幼児かせいゝ國民學校初等科一、二年の兒童にいたします。

而して私の解答法を總括的に申しますと、成るべく答へないで幼児や兒童に出来るだけ事物を觀させたり考へさせたりするのであります。

以上の前置をしてこれから一々の疑問について私の解答を申上げることにいたします。

## 二

### 1、なぜ寒い時はお口から煙が出るか

さうしてでせうね。お口だけからばかりですか。鼻からも出ないですか。そうらよく御覽なさい。お口を開けて呼吸するに、こんなにお口から煙のやうなものが出ますね。今度はお口をふさいで鼻から呼吸をしますよ。よく御覽なさい。そうらこんなでせう。鼻からも煙が出ますね。お父様がお煙草を吸つて鼻から出される煙をこんなに違ひますか。よくくらべて御覽なさい。

寒い時こんなにお口や鼻から出る煙のやうなものを鏡に當てて見ませうか。鏡をよく拭つて曇つてゐないやうにして置きますよ。そしてそうら呼吸を吹きかけますよ。こんなになりましたか。鏡が大變に曇つたでせう。こんなにね。この鏡を指でなでて御覽なさい。みんなになつたでせう。指がぬれたでせう。さうして鏡に水がついたのでせう。呼吸を鏡に吹きかけて鏡に水がつくのはさうしてでせうね。呼吸の中に水があつたのでせうか。呼吸の中に水の小

さなく、な粒が入つてゐるのでせうか。さうですね。夏のやうな暖いときにはお湯から湯氣が出ないでせう。ところが冬のやうな寒いときにはお風呂のお湯からでもお薬罐なごのお湯からもや／＼した煙が澤山出ますね。それを湯氣といひますが寒いときにはお湯から湯氣が出ますね。それと同じやうに、寒いときには呼氣が湯氣のやうに白い煙のやうになるのですね。さうです分りますか。

## 2、なぜ僕が歩くとお月様も歩くのですか

さあ不思議ですね。ワタシがアルクトオツキサマガアルク。不思議ですね。よく氣をつけて見て御覽なさい。あなたとお月様との間に何も無いときにはあなたが歩くとお月様も歩きますね。あなたとお月様との間に二三本の木が並んでゐるときにはあなたが歩くとお月様も歩きますかさうですか。いろ／＼くらべてためして御覽なさい。

## 3、なぜ火はあたゝかいのですか

火はあたゝかいものですね、また火はあかるいでせう。火からは熱が出ますので暖いのです。また火から光が出るので明るいのです。熱はぎんなものでせうか、光はぎんなものでせうか

## 4、なぜ雨が降るのですか

なぜに雨が降るか、中々バケしいね。一體雨はぎんなものですか。水ですね。水の粒ですね。大きな粒もあり、小

きな粒もありますか、こさめのときには小さな粒で、大雨のときには粒が大きいでせう。雨は粒でないですか、棒のやうですか。それは棒のやうに見えるのでせう。ポツポツミ雨粒が落ちて來ますときははつきり粒ですね、ザア／＼大雨が降るときも水の粒でせう。

一體雨はどこから降るでせう。天から降りますか。天こいつてどこでせう。

## 5、なぜお天氣の日と雨降りの日とあるのですか

これもバケしいですね。雨降りの日には雨が降りますが、それも一日中降つてゐるときもありますが、さうでない日もありませう。雨が降つたり止んだりしてゐる日もありませう。また朝の中は大雨が降つてゐるがおひるすぎからはからつて晴れたよいお天氣の日もありませう。いろいろありますね。また雨降りの日でもなく、よい天氣の日でもないといふときがありませんか。そんなときは何といつてゐますか。これから毎日のお天氣を氣をつけて見てゐて御覽なさい。お天氣の日と雨降りの日とぎんな工合にありますかね。

## 6、なぜ水が出来るの？

なぜ水が出来るのかさいつても一寸やそつみに答へられませんよ。水は昔の昔の大昔から出來てゐたもので、ぎんなものにも水のはいつてゐないものはないのですよ。皆さ

んの身體からだなごは年寄の身體よりも水氣が多いので、水々しいいふ位ですよ。

### 7、何ぜ晝間はお日様で、夜はお月様なのですか

何ぜミ理窟をいふこごが出来ませんよ。お日様が出てゐるときは明るく、その時を晝間といふのです。お日様が入つて暗くなつた時を夜といふのです。お月様は晝間でも見えるときもありますが、何しろ晝間はお日様で明るいからお月様が見えないのです。それが夜になるミお日様が入つて暗くなるからお月様が光つて見えるのです。丁度小さな電燈がついてゐても晝間は分らない位であるが、夜は大變明るく感ずるやうなものです。尤も夜でもお月様の見えないう暗夜があります。そんなときはお星様は満月のときよりもよく光りませう。氣をつけて御覽なさい。

### 8、何ぜお月様が出るの？

お月様が出る夜ミ出ない夜ミありますね。そして同じくお月様が出る夜でも、お月様が出る時刻が違ひませんか、またお月様の明るく光つてゐる形が毎日變りませう。三日月のときミ半月のときミ満月のときミそれから満月をすぎたときミで著しい變化があります。よく氣をつけて御覽なさい。

それでお月様はこの私共人間の棲んでゐる地球のまはりを通つてゐるから見えるときミ見えないときミあります。

そして晝間はお日様が出てゐて明るいのでお月様か分りませんが、夜だミお日様が出てゐないからお月様がよく光つて見えるのです。さうです分りますか。中々分らないでせうが勉強するミだん／＼分るやうになりますよ。

### 9、海が一番深いところはどこですか

海でも海岸に近しいところは淺くて、沖に行くほど深くなります。遠淺の海では大分遠く沖の方に行つても割合ミ淺いのですが、大抵の海では海岸から百米も沖に行くミ相當に深くなります。それからうんミ深いところになりますミ何千米もある相です。

### 10、なぜ雷が鳴るか、どうして光るか。

大變六ヶしいね。一體雷つてみんなものだミ思ひますか。何に雷獸ミいふけだものですか。鬼のやうな雷様が雲に乗つて太鼓のやうなものをごろ／＼ミならすのですか。そんな繪を見たこごのある人が多いでせう。またお婆様から雷様のお話を聞いたこごがあります。昔は雷様は鬼のやうなものだミ考へたり、また雷獸ミいふけだものだミ考へたりしたものです。そしてごろ／＼なるのは太鼓のやうなものを鳴すからで、光るのは大目玉をむくからだミ考へたものです。しかしだれも、その雷獸を見たものもなく、鬼のやうなものを見たものもないのです。それでいろ／＼に考へたのですが中々分らなかつたのです。雷様は電氣で

あるこいふこことを知つてゐますか。さうして知つてゐますか。電氣はみんなものでせう。電氣で電車も動きまゐり、電燈もつきまゐります。また電鈴も鳴り電話も電氣を使つてお話をすることが出来るのですが、さて電氣の正體はどんなものでせう。電氣の正體がよく分れば雷様の正體も分るのですがね。

### 11、なぜ風が吹くのか

空氣が動けば風になります。團扇が空氣を動かす小さな風が起りますね。また着物や風呂敷のやうなものを動かしても風が起ります。ところが大風が吹いたり、強い風が吹くのはさうしてせうね、昔は風の神様が大呼吸をせられると風が吹くとか、大風呂敷の口を廣げられると大風が吹くとか考へたものです。あなた方は風の神様が大風を吹かせるのだと思ひますか。

### 12、なぜ影がうつるのですか

かげに入るこいふきには日光の來ないところに入ることでせう。かげふみの遊びは人のかげをふむ遊びでせう。やつぱり人のからだで日光がさゝないところにかげが出来るのです。夜であれば電燈の光が來ないところがかげになつて暗いでせう。

### 13、なぜ虹は七色なのですか

虹の七色はつきり分りますか。赤、黄、紫がつきり分る位で、七色はつきり分りますまい。はつきり七色が

分りますか。實は七色だけではないのです、兎に角虹はなぜ七色かこいふことの前にさうして虹が出来るか、分りますか。虹は三色なり、五色なり、七色なり、もつと多くの色を見分ける人もありますが、一體さうして虹が出来るのでせう。その理窟は大變に六ヶしいですが、皆さんが、自由に虹をつかつて見たいならば、次のやうにするさよいのです。水を一ぱい口にふくんで、お日様を後にして仰向いて、その水を空に向つて霧に吹いて御覽なさい。キツ綺麗な虹が見えませう。

### 14、なぜ冬は寒いのですか

サア冬がさうして寒い考へて見ませう。第一に冬は夏にくらべるとお日様の出てゐる時間が短いのでせう。冬は日出がおそく、日入が早くて晝が短いからお日様に照されるこことが少いので寒いわけです。第二に冬のお日様は夏のお日様より高さをくらべて考へて御覽なさい。夏はお日様が高く頭の上からかん／＼照して居りますが、冬はお日様が低く斜に照してゐませう。それだから冬は寒いのですね。よく氣をつけてお日様の高さや、日出、日入の時刻などについて一年を通して研究して御覽なさい。

### 15、やかんのお湯が沸くとどうして音がするのですか

やかんのお湯が沸いてゐるさき氣をつけて御覽なさい。音がするにもいろ／＼ありますよ。湯氣で蓋を持上げて蓋でかた／＼いさせるここともあります。またやかんの中でお湯がぐら／＼音を立てゝゐるさきもあります。泡が出来ると泡がつぶれるので音がするさきもありますよ。

# 鹽野圖書監修の官

## (一) 教へを乞ふ座談會

### みごり會研究會

○國民學校低學年  
カズ

倉橋「今日は我々のかねて問題として居ります幼稚園に於ける數の問題に就て研究いたしたいと思つて此の會を開きました。殊に國民學校の方が一定の方針の立つた今日としてそれに準じてゆくさいふ意味からも一層はつきりさせたいと思ふのでありますが。そこでこの方面の中心でいらつしやる鹽野先生を煩はして、御迷惑をお願ひしたわけなのであります。先生は文部省の圖書監修官として専

ら理數の方をお受け持ちになつてゐられ、國民學校の理數科の全般、殊に算數の方面についてはその中心でゐられます方で、此の方面は先生に伺ふのが最も確實であります。それで一つこれから先生からみたら愚問を出しますがそこをおゆるしいたゞいて色々教へていただき度いご存じます。まづ一應國民學校の低學年の算數の方面、殊にカズノホンの問題を中心として、教へていただく事が必要と思ひます。就學前に數についてさうするかは追々道がたつてから伺ふこととして、たゞ今として先づ、國民學校新入兒童に對して數の點について如何なる標準をもつて見てゐられるものか、數さいつても量も入りませうが一からいくつ簡單ではないがさういふ所を規準にして出發させてゐられるか、又國民學校全體さいつては大きなことになります。が、せめて低學年又は一年のさうまででその問題を進め、整理しようとしてゐられるものか。これはカズノホンをみたゞけではわからないのでその點をまづ伺ひ度いと思ふのですが」

鹽野「私はお話するさいふよりも、皆さんの御質問にお答へする心算だったので……。今のお尋ねに對し、私共の考へてゐる事を申し上げます。まづ一般的の事から申しませぬ都合がわるいのでそれから申し上げます。國民學校の低學年の理數科を如何したらいいか、これは前に及川先

生其他にも文部省へ来ていたゞき、御意見を伺つていろいろ考へたのでありますが、そのものなるものとしては、御存じの通り、國民學校は皇國民の鍊成といふことで、そこから一步も外へ出ないので、そこから出發し、そこを離れず、そこに即し、そこをねらひ、又そこに到達するので、つまり日本人として生き抜く道を修めさせるのです。従つて數でも自然觀察でもすべて道の修練で、日本國民のふむべき、すゝむべき道の修練なのであります。皇國の道の修練といふそれが全一的に、廣い一體のものなので、この方面から修練してゆくか、それを八十年に修めさせてゆくには或組織が必要になつてくる。その爲に教科が分れてゐるのであります。そこで理數科は日本人としてふみ行ふ道を理的な方面から眺めて、さういふ事をしたらいゝかを考へたので、即ち算數といふのはその中の一つのもので、決して自然科学や數學の初歩といふのではない。する事自體が皇國の道の修練であつて、數を他のものから切り離して考へていたゞいては主旨に合はないのです。殊に低學年は子どもの精神發達の言つて智情意がはつきり分かれてゐない時です。そこを考へて理的と言つても情意から切り離さず廣く考へるので、理數科の中の算數も數學的方面だけを考へずに廣く考へるのであります。唯中心となるところが算數にあるといふのです。理數科は法文の中でも、自

然科學や數學の句を出さない事を考慮したつもりなのです。生活に即した事物を正確に見、考へ、扱ふといふことに重きをおいたわけで、その理的な特色を理數科に於いて出すといふわけで、正しく、詳しく、明らかにしてゆくといふのが結局對象に對する人間の働きであれば、その數の見方、考へ方、扱ひ方を訓練するのです。即ち常に全一的なもの、全一的な働きを考へ乍らそれを明らかにする爲にその中に特色のあるものをり出して或觀點をそこにおく、といふので私はこのところを一源同體、異相論、と言つてゐます。國民學校全部に共通した考へはこれだと思ふ。その働きかけをしてゆく事によつて物の眞の相をつかみ、それに達するすぢ道を見出し、捉へ、従ひ、更に新に創り出す。即ち合理創造の精神といふので、日常生活もそれでゆき、それを發達させて國運發展に資する爲の素地をつくらうといふのであります。

物事を正確に見、考へ、扱ふ修練といへば、物の形、數、を見なければならぬ。そして觀念を明らかにしなければならぬ。そこに理數科の仕事があるわけで、觀察といひ、算數といつても、もゞく一體のものでカズノホンニ觀察は一つのものであるのです。互に關聯があるところぢやない。理數科の中のもの互に内在してゐるものなのです。そこで、ではその正しい見方、考へ方、扱ひ方をさう修練

してゆくかといふことではそれを分析的に考へておかねばなりません。縦横に調べあげ、系統をおうて學年毎にもつてゆく、それが教科書であります。が指導する時は全一的心を考へ乍ら扱ふのが原則なのであります。そこで低學年に於いてはさの様にしたらいいか、前に及川先生その他に伺つたのであるが、前にも言つたやうに、低學年ではまだ智情意が分化してゐない。さいつて混沌さしてゐるのではない。その萌芽がある。それを見出して伸してゆくために科目別の教科書があるのです。そこにねらひ所をおいてゐるのです。

カズノホンは四月も終り頃でないさ用ひません。それまでは觀察ばかりでありますが、さいつてその間全然數の事をしないかといふに決してさうではなし、觀察し乍ら自然にささもの間で問題になるものを取り出してするので。春の野に摘草に行つても、學校に飼つてゐるひよこを見て、數や大小がすぐ出てくる。そこに當然出てくるもの、ささも乍らに見てゐるものへ、——教へてやらうといふのでなく、見方、考へ方、扱ひ方の修練なのでから——正しく、確にさ指導するのです。そして、ささもの中に出て來たものゝ中から注意して段々組織立て、修練してゆくのです。その組織立てる時期さいふのが中々問題なので、カズノホンを一年間やめても決してかまはないのですが、そ

れでは、たゞボヤクわけわからず過してしまつて、今までの教育より能力が低下した、では申しわけがない。そこで四月の終り頃からカズノホンを使ふさいふことに落付いたわけなのです。

で、それでは幼稚園では、國民學校に入るまでにさの位の程度まで知つてゐるものさ豫想してゐるか、さいふのが倉橋先生のお話にあつたが(教師用の本をさり出されるつまり大體數へる事の意味に或程度の直覺をもち、五つ六つ位までの數へる事さ順序を大體知つてゐればよいのです。言ひかへますさ數的に五つ六つ位を或程度把握してゐればよい。數詞さ對象を一つにして數へる。數へるさいふことをする氣持を或程度持つてゐればよいのです。勿論それより餘計數へても差支へはありませんが。従つてカズノホンに入る前に十位までの數が自ら問題になれば數へるさいふこまが經驗されるわけなのです。春の野で摘草をして董の花角力、おぼばこの花角力なきする。何人ぬき、さかいふやうな遊びをすれば、そこで自然數へるこまが出てくるわけなのです。これでも一本二本さか一匹二匹さか名數には重きをおかず、花でも蝶でも一つ二つでいゝさ考へてゐます。が、これもささもの間で問題になれば勿論取上げてよいのです。そこで量、大小、相等を比較判斷する素朴な能力は出來てゐるので、それに關心を使ふやうな方にしむけ

てゆけばよいのです。前のおぼはこの花角力でも、莖の長さによつて勝つミか負けるミかあるし、花束の大小、相等なきによつて、關心が働くわけです。又數量的な處理に於いても、いくつかに分けるミいふやうな事は、強いて割算ミいはないでもミり上げる事が出来る。これも自然觀察の間に隨所に取扱はれる。結局數や量の觀念の出でくる動機は複雑なものです。さういふ動機を廣く經驗させることが大事で、自然觀察を通すミ極めて自然に廣く多く經驗させる事が出来るわけなのです。それから、子ミもは空間に對する認識能力も或程度もつてゐますから立體的な繪を表現する。即ち立體を立體として把握する能力を幼稚園の子ミでももつてゐる。ですから三角や四角を圖形ミして示すなきはかへつて合はないのです。木の葉なきで複雑なものまで、一々對稱ミか何かいはなくても、經驗によつて或程度それらの直覺をもつのです。そして觀念の出来る動機が經驗されるのです。斯うしてカズノホンへ入るミ數へ方も或程度整理整頓します。物ミ對應して正しく數へさせ、集合數ミ順序數ミ明瞭でなければ明瞭に整理する。決して抽象數にすぐに入らないのです。これが七月八月迄の仕事でこの點前の小學算術ミあまりちがひません。實物をはなれずに二十位までの範圍で物の數をはつきり知るので、又數の構成、例へば四ミ六ミで十ミいふやうなきミ、これ

も抽象でなく遊戲、製作なき事物に則し必要ミ興味をもたせつゝ、自然觀察ミはなれずにするので、例へば松葉あそび、これは圖形をつくるミこにもなります。次の豆あそび、これも果實を採集するミところからするので一組の中で一さやにいくつのがいくつ、ミいふやうに、統計の初歩にもなるわけです。いくらか抽象的になつてこゝらで數字を教へる事になつてゐますが數字は既に電車の番號ミか時計の文字板なきで子ミもの生活に表れてゐます。時計の文字板が出てゐますがこゝで生活を規則正しくするミいふ様な、理數科でない他の分野も入つてくるわけでそれはそのまゝ扱ふのです。形についても、前にも言ひましたが自然物を見せれば形をはつきり見させられますが七夕さまなきで短冊、色紙をつくらせて遊びを通していくらか抽象的なものに的確にしてゆくのです。斯うして一學期では數については凡そ二十位、それが越えてもいゝのですが、的確にする標準をそこにおきます。二學期では大分修鍊が積んでゐますから最初に十までの加減が十月、十二月に百までの數へ方、一月に百までの簡單な加減、二月で二位數ミ前數ミの加減が出て來ます。繰上り繰下りたミへば七に八をたすは實際に則しては前から幾度も出てゐますが數をミり出しては二年生になつてからです。大小、長短については、長さは一年の後半期、センチメートルが、物差の使用が十一月

の終りに出て來ます。圖形については餘りさの程度さいは  
れませんが折り紙、切紙をさせ乍ら基礎的圖形に親しませ、  
又自然物の中に面白い形を豊富にみ出させるやうにするの  
です。以上で大體總論を終るのですが——」

倉橋「お蔭で大へんよく判りました。非常な發見です。そ  
こで今のお話を理解する助けとしてこれは(カズノホン  
一頁を示して)はさう扱ふのでせうか。」

鹽野「自然觀察で春の野さいふのがあるので、春の野で遊  
ばせ、そこでしてもよし、又教室で思ひ出してあつたつた、  
さいふ風にやつてもいいのです。」

倉橋「この葦の花、蝶が五さいふのは五つまで知つてゐる  
さして出發した五つなのですか。」

鹽野「五つさいふのは兎に角一くぎり、それより多くても  
勿論よいのです。」

坂内「春の野の觀察にしましても、その他でも、時により  
所によりこちらの思ふやうにならないこが多いと思ふの  
です。花でも昨日のさ今日のさちがふさいふやうに——」

鹽野「自然觀察させるなり一應調査してさんな遊びが出  
來るかそんなものがあるか、を知つておく必要がありま  
す。うんさ出來た先生なら至る所教場ですが、準備、下し  
らべなしではよい指導は出來ますまい。」

倉橋「理さ數を分けてはいけませんが今少し數の方

へ片よらせて……。長く我々がし、子さも達ももつてゐる  
さ思はれる物を離れたる一二三を、さの程度に許すか、こ  
の單位數の扱ひをさの程度にするか、全然押へるか、捨て  
るかが伺ひ度いのです。」

鹽野「それはおさへません。たゞその必要がなければ教へ  
るさいふ事はしません。」

倉橋「號令のやうな、物に即さない一二三をさうしてか子  
さも持つてゐるさ思ふのです。中にはそれが餘り過ぎる  
爲實物の數に入りにくくなる位に。」

鹽野「それは數が言へるさいふ事でせうか。」

倉橋「言へるさいふ事でもありますが、その上に、一に一  
加へるさ二である事が數字で教へられる前に何だかあるの  
です。幼稚園の方針ではそこを與へないやうにしてゐるが、  
數の觀念の方が先で、かへつて逆に物にむすびつけるさい  
ふやうな事があるのです。」

鹽野「さういふ時に表はれますか。」

倉橋「この例は少しおかしなのですが、幼稚園に入る前  
はいくつまで知らねばならぬか、數それ自身を知るさ  
いふ——。」

(つゞく) 文責在記者

# 國民學校の音樂

江やつ林小 導訓校學民國屬附校學範師等高京東

初等科一年



1. ハホト
2. ハホト→ハヘイ→ハホト
3. ハホト→ロニト→ハホト

の三つの和音の指導を十分にする。

初等科二年



4. ハヘイ→ニヘイ
5. ハホト→ホトハ
6. ホトハ→ホトロ
7. ホトハ→トハホ
8. トハホ→イハホ

以上低學年の和音聽音の順序を述べて幼兒の教育の御參考迄にしたいと思ふ。

この度「國民學校の音樂」といふ標題で、國民學校の音樂が從來のまきのやうに變つたか、くわしくかくようになつたので從來の小學校に如何に違つてゐるかを考へてみたいと思ふ。

まづ小學校令施行規則第九條に國民學校令施行規則第十四條を比較してみよう。

「唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ兼テ美感ヲ養ヒ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス」

尋常小學校ニ於テハ平易ナル單音唱歌ヲ授クベシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準ジ漸ク其程度ヲ進メテ授クベシ、又便宜簡易ナル複音唱歌ヲ授クルコトヲ得

歌詞及樂譜ハ平易雅正ニシテ兒童ノ心情ヲ快活純美ナラシムルモノタルベシ

ニ規定されこの教則は昭和十六年四月、國民學校實施に到る迄そのまゝ使はれてゐたのである。

國民學校は「初等科」(六箇年)「高等科」(二箇年)であるが初等科の教科は次の四科である。

國民科(修身・國語・國史・地理)

理數科(算數・理科)

體鍊科(武道・體操)

藝能科(音樂・習字・圖畫・工作・家事・裁縫(女))

小學校の「唱歌科」が國民學校では「藝能科」の一科目として「藝能科音樂」になつた。教授時間數にも變更があつた。

### 一、藝能科音樂ノ目的

藝能科音樂ハ歌曲ヲ正シク歌唱シ音樂ヲ鑑賞スル能ヲ養ヒ國民的情操ヲ醇化スルモノトス

### 二、藝能科音樂ノ教材

初等科ニ於テハ平易ナル單音唱歌ヲ課シ、適宜輪唱及重音唱歌ヲ加ヘ且音樂ヲ鑑賞セシムベシ又器樂ノ指導ヲナス事ヲ得

歌唱ニ即シテ適宜樂曲ノ初歩ヲ授クベシ高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メテ之ヲ課スベシ

歌詞及樂曲ハ國民的ニシテ兒童ノ心情ヲ快活純美ナラシメ徳性ノ涵養ニ資スルモノタルベシ

### 三、藝能科音樂ノ教授上ノ注意

(一)兒童ノ音樂的資質ヲ啓發シテ高雅ナル趣味ヲ涵養シ國民音樂創造ノ素地タラシムベシ

(二)發音及ヒ聽音ノ練習ヲ重ンジ自然ノ發聲ニヨル正シキ發音ヲナサシメ且音ノ高低強弱音量律動和音等ニ對シ鋭敏ナル聽覺ノ育生ニカムベシ

(三)祝祭日等ニ於ケル唱歌ニツキテハ周到ナル指導ヲナシ敬虔ノ念ヲ養ヒ愛國ノ精神ヲ昂揚スルニカムベシ

學校行事及團體的行動トノ關聯ニ留意スベシ

こある。如何に内容が豊富になつたかはこの二者の比較研究によつて御理解戴けるご思ふ。

藝能科音樂は國民學校の本旨に基いて、藝能科の要旨を念頭に於て、音樂科目の特色を發揮していかなければならぬ。すべての教科は我が國教育の全般に亘つて一貫した指導方針のみに、將來具體的に又實際的に、大きな効果を期待して、各教科及科目相互の關聯並に科目獨自の特色を發揮するのに必要な諸種の具體的問題に對して檢討を加へられてこの教則案が立てられたのであるから、この大目的を達成するためには、この大方針に基いて、兒童の進度過程を顧慮して、その程度に適合するやうに慎重に企畫され、眞面目に又眞剣に身を以て兒童に臨むだけの用意と心構へがなければならぬ。從來の唱歌科の心構へはかなり違つた感じがする。この様にして初めて音樂科目は單に末梢的技術の修練に終ることなく、我が皇國民としての深い教養を得させることになるのである。

祝祭日やその他國家的行事に用られる歌曲については適切な指導をして敬虔の念を養ふやうに、又愛國の精神を昂揚するやうに力めなければならぬ。

音樂は學校行事や團體的行動に關聯する面が特に廣いことに意を留め、是等を總て教育施設の中に組織化して教育全般の實績を擧げるやうに力めなければならぬ。

重要な基礎練習として發音、聽音を擧げた。即ち發音及聽音の練習を重んじ、前者は無理のない自然の發聲によつて正しい發音をさせるやうに、又後者は音の高低・強弱・音量・律動・和音等に對し鋭敏な聽覺の育成に力めるのである。

以上は施行規則の比較の大體であるが、從來特に異つた點について考へてみる。

まづ時間數は次の通りである。

初等科

- 第一學年……體鍊科の體操を合せて一週五時間
  - 第二學年……同 六時間
  - 第三學年以上六學年迄……一週 二時間
- 高等科
- 第一・第二學年……一週 一時間

(但し一時間の授業は四十分)

第一及第二學年の體鍊科を合せての五時間、六時間は如何に之を割りあてるかといふことは實際家の大きななやみであるが、低學年に於ては音樂と體鍊とは不可分の關係にあるので、割けようとする考へ方がすでにあやまりである。初等科第一學年に於ては音樂が五時間體鍊が五時間と考へてよいのでその時間を「音體」か「體音」かどちらを主とした指導にするかはその指導者の考へによつて、十分に効果が

あげられるものであると信ずる。専科のある學校ではさうしても分けて指導しなくてはならないので、音樂を主とした授業として私の學校では低學年二時間づつを指導することになつてゐる。低學年に於て不可分のこの藝能科音樂と體鍊とは幼時の教育にはもつこく不可分であるべき筈である。歌ひ出せば手足を動かして體全體で歌ふ彼等は、全體が音樂であり、又全體が體鍊であると思ふ。

次に國民學校は音名視唱になつたことである。從來のドレミ唱法からイロハの音名唱法になつたことについてはいろいろ今尙論ぜられてゐるが、とにかく國民學校では

- 一、一音一音名とするこゝ
- 二、音名にはイロハニホヘトを用ひること
- 三、全學年を通じて音名唱法を採用し、初等科四學年より階名唱法ドレミを併用し得ること。
- 四、音名に嬰音の附されたる場合、唱謠に不便なる時、

又は速度の早き音符を歌ふ場合には嬰音の文字を省略して幹音名によつて唱謠せしむること

となつた。これ迄小學校に於ては殆ど大部分は階名唱法を用ひドレミを使用し、調の變るごゝにドレミの位置を變へてゐたのであるが、この方法は音高の記憶といふ點からは不適當である。ある一つの音がいくつかの名前によつて呼ばれるごゝは結局個定した名稱を捕捉するごゝが困難にな

り、兒童の頭を混亂させる。そこで一音一音をこし、これによつて決定的な高さを記憶させようといふのである。尙イロハは我が國では五十年來使用して來たものである。

音高の記憶は若い内の方が最も良好の結果を生ずるので、國民學校では初等科一年より三年頃迄の間に於て充分にこれを訓練することが必要である。四年以上も訓練することは勿論である。

次に和音の識別練習であるが、旋律・律動と共に音樂の最も重要な要素であるが、和音の訓練は音高の記憶も大きな關聯をもつてゐる。即ち音高の記憶の養成は和音訓練によつて導かれるところが非常に多い。

鋭敏な聽覺の育成は以上の外に鑑賞教育も器樂の教育も大なる關係をもつてゐる。

聽覺訓練は國防産業との關係上特にその重大性を帯びて來たので國民學校に於ても明らかに明示されるに至つたのである。

聽覺訓練の方法として大體次の様に區別することが出来る。

一、音高の記憶

二、律動の知覺

三、音色の認識

四、強弱の判別

五、和音の識別

以上の中從來の音樂教育に於ては、第一の音高の記憶、第五の和音の識別に不十分の點が多かつたので將來この點が特に訓練を重要視されてゐる。

次に和音訓練の範圍を大體の訓練方針を御參考迄に述べ

る。

1、初等科第三學年迄にハ長調に屬する各三和音ワ屬七ワの和音を訓練する。

2、初等科一學年の第一學期に五線譜の音名讀を指導し同時に和音聽音訓練を行ひ、第二學期頃から、五線譜を結合して和音訓練を行ふ。

3、教科書は初等科三年迄、ハ長調、ト長調、ヘ長調に屬する調號のもののみが現れるが、そのト長調、ヘ長調のものも派生音を使はず幹音のみものを中心とする。是等十分連絡をまつて和音訓練が出来る。

4、和音訓練は「聽くこと」「認識すること」「記憶すること」等の所謂知的取扱の他に「味はふこと」の指導が重要である。

5、基礎練習は一時限の中大體十分迄を限度とする。

6、和音訓練は次の様な範圍を方針によつて行ふ。

聽音↓五線譜との結合↓音高記憶。  
和音の認識↓記憶。

單音抽出唱……和音中の一音を抽出して歌ふ。

分散和音唱……分散和音として歌ふ。

和音合唱……二部、三部(四部)

7、初等科四年でト長調、ヘ長調、五年でニ長調、六年で變ロ長調に屬する和音訓練を歌曲の視唱を聯關して行ふ。(それ等の轉回和音も適宜訓練する)

# 毎日の保育問題 (七)

上 澤 謙 二

## 一二 園舎内を四まはりする

Yちゃんが頭をふつて、さうしても『お家へ歸る』といはない。

その理由は『お母さまがだまつて途中で歸つたから』といふのである。『だからお母さまが来るまでは幼稚園から歸らない』といふのである。

これは二年保育の年長組の園児で、しかもしつかりしてゐる子供である。だから勿論お母さまがついてゐることは知らないし、わざ／＼わが子にこそはつて、はつきり承知させて歸らねば泣き出すといふ不安もないわけである。現に朝方お母さまが子供といつしよに幼稚園へ来て先生と話をして、そのまゝ歸つたことは、幾度かある。それで安心して——さいふよりも自然に何げなく歸つたお母さまはけ

つして再び幼稚園へ来る筈はない。だから『お母さまが来るまでは幼稚園から歸らない』になれば、恐らく一二時間もたつて『さうしたのか』と心配したお母さまが、あたふたさやつてくるまでは、この事件は解決さるべくもない。

一體Yちゃんはしつかりしてゐるだけ強情なところがあつて、殊に家庭では、自分がいひ出したことは、是が非でも通さなければ承知しないといふ傾向があるといふことを、豫て聞いてゐた。幼稚園では殆どそれは現はれなかつたが、今日はお母さまとの關係に於て起つたことなので、その點、家庭的氣分が醸されて、幼稚園では現はれなかつた持前が、さう／＼出てきたのであらう。

そこで先生は考へた。

「さういふならば、この際こそ、幾分でもそれに觸れて

指導することができるといふ機会だ。この機会を捉へてやらう。

そこで、みんな歸つてしまつてガラソなつた遊戯室の隅に椅子に腰をおろして、胸に組んだ自分の手の指を見つめるやうにしてうつつむいでゐるYちゃんのまごころへ行つて話しかけた。

『Yちゃん、さあ、お家へ歸りませうね』

うつつむいたまゝ烈しく頭をふる。

『歸らないの』

うつつむいたまゝ微動だもしない。

頑強に自己の主張に執着してゐる様子が察せられる。

さてこれをさうして家へ歸らせるか。

いきなり手を取つて引きおこして『さあ、歸るんです』といふのと同じに引張り上げて、泣いて吼えてもかまはず、さん／＼ひきづつてゆくのも、一つのやり方であらう。けれどもこれは全然強制で、子供を無理に服従させることになる。

『お母さまや先生のいふことをきかない子供はだめです。そんないけない子供は幼稚園へ來られませぬ。そんな強情な子供は先生は大きらひです。さあ早くお歸りなさい。歸らなければ、先生はさてもおこりますよ』

こんなにいふのも一つのやり方であらう。けれどもこれ

は全然叱咤で、只管子供を恐れさせる結果になる。

『そんなに歸りたくなければそこにゐらつしやい。もう先生はみんな歸つてしまふから、Yちゃんひきりになりますよ。ひきりぼつちでこんな廣いまごころにゐていゝの。いまに暗くなつてから、それでも電氣はつかないし、誰もここへ來ませんよ。そして鼠がチュー／＼出てくるから。それでいいの。いやなら早く歸りなさい』

こんなにいふのも一つのやり方であらう。けれどもこれは全然威嚇で、子供を萎縮させる外はない。

『Yちゃんはお懶口ですもの、よく分かるんですもの。きつとも歸るわよ。さあ、先生はみんな目をつぶつてゐませう。その間に歸るわよ、きつとも。さあ、歸るかな。ほら、歸るかな。Yちゃんはいゝ子ね。先生達びつくりしてしまふわ』

こんなにいふのも一つのやり方であらう。けれどもこれは全然御機嫌ごり甘やかして、子供を増長させるに過ぎない。

そのいづれもが上乘でないことは明らかである。最も望ましいのは、Yちゃんが幼児なりに自己の考慮、動機、意志によつて一言でいへば自發的に家へ歸ることである。保育者としては、出来るだけこれに近い状態を導き出すことに力めねばならない。

そこで先生は一きわYちゃんのそばへ寄り添つて話しはじめた。

『ねえ、お友達はみんな歸つてしまつたでせう。子供でここにゐるのはYちゃんひとりよ。たつたひとりであるて面白い。面白くないでせう、つまらないでせう』

親しさは失はないが、一語々々念を押すやうにしていふ。それは現在のYちゃんの心境をはつきりその本人に示して、出来るだけ明らかに自覺させるための説明だからである。中に『面白い?』といふやうな質問の型式を挿入したのも、自覺を強める手段である。それに對して答へなくともよい。到底答へるやうな輕快な心持にはなつてゐないのだから、そのまゝあこの言葉をつゞける。けれども答へないにしても、單なる敘述型よりもYちゃんの心にひびくこと、從つてそれだけ自覺を促す力があることは争へまい。

そこでちよつと奥の手を出してみる。

『Yちゃん、お家へ歸る?』

けれどももうつむいたまゝだまつてゐる。

『ぢやあ、先生は幼稚園の中を一まはり廻つてくるから、その間にYちゃんね、歸るか歸らないか、よく考へてよ。さうして歸るごきめたら、先生がいつしよに行つてあげませうね』

「いつしよにたゆぐ」は、この場合「歸りよくする」補助手

段である。要するに「歸ることがよい」を自分で分かつて「歸る」を自分で決定することが眼目である。だからこの眼目を實現するためには「自發的たること」を傷つけない程度に於て、間接的な誘導を講ずることは許さるべきであらう。

かういふやうにしてしばらくひきり残すことは、一種の約束を時間的條件を課して、おのづから明確に考へ又可及的に早く決しなければならぬ状態に置くことであつて、間接の他動的按排によつて、知らず識らずのうちに直接な自發活動を喚び起す試みに外ならないのである。

やがて一巡して歸つてきて聞く。

『あ、Yちゃん、いつしよにゆきませう』

けれどもまだうつむいたまゝだまつてゐる。殆き前と變りありとも見えぬ。

それで更に局面を轉換して話を進める。

『お母さまはお家で、Yちゃんが歸るのを待つてゐるでせうね。』とつてまだ歸らないんでせう。もうきつゝ歸つてきますよ』とつていつてゐらつしやるでせうね。Yちゃんが歸るごきまあ、お歸りなさう』とつて、それはおよろこびになりますよ』

これは前の説明と對照的の意味をなす。幼稚園にひきりゐることが、いかにつまらないかといふのに對して、家へ歸ることが、いかに喜ばしいものであるかといふことを、出

来るだけ實感的に示して、Yちゃんの心をお家の方へ向けさせ、歸らうとする意欲を起させようとする試みである。

そこで又ちよつと奥の手を出してみる。

『だからお家へ歸る。』

けれどもやはりうつむいたまゝだまつてゐる。

『ちやあ、先生は又幼稚園の中をまはつてくるから、その間によく考へてよ。今度は歸るべきめるかな』

さういひ置いて、再び一巡して歸つてくる。

『さあ、Yちゃん、いつしよにゆきませう』

顔を擧げてちよつとこつちを見たが、すぐもこの通りにうつむいてだまりこんでしまふ。それで又局面を轉換して肉薄する。即ち答へねばならないやうな質問を發するのである。

『Yちゃんが元氣で幼稚園から歸るよ、お母さまは何か下さる。』

するまゝうつむいたまゝだが、答があつた。

『下さる時も、下さらない時もある』

『さう、今日歸つたら下さるかしら。お母さまが先へ歸つても、泣いたりなんかしないで歸るよ、きつと何か下さるでせうよ』

歸らうとする動機を構成するため、更に具體的な誘因を提供しようとする試みである。そこで三度奥の手を出してみる。

『ね、だから歸りませう』

Yちゃんはちらつとこつちを見たが、うつむいてだまりこんでしまふ。けれども、さつき答へたことゝ、今、ちらつとこつちを見たことゝは、明らかに心の結ばれが少しゆるんできたことゝ、もしくはほぐれかゝつたことを反映するものさういへやう。

『ちやあ、先生はもう一度まはつてきますからね、今度はYちゃん、歸るつていふのでせう』

さういひながら軽く肩へ手をかけるこゝ——これは意外！かすかながらたしかにコックリした。

『まあ、よく分かるわね。ちやあ、まはつてくるわよ』

幼児はなべてさうだが、轉回するとなれば、發展するとなれば、大人が思ふ以上に顯著に活潑に轉回し發展する。

このコックリはかすかではあるが、もう一度まはつてくれれば正に好ましい結末になるこゝを約束するものである。

先生は大いそぎで四度まはつてきた。

『ちやあ、歸りませう』

案の定！ 今度は素直にコックリするこゝ、ちよつと出した先生の手へ、早くもしつかりつかまつた。間髪を容れず、そのまゝ兩人は歩き出す。

廊下、下駄箱、玄関、御門——すら／＼と過ぎて、表へ出た。表へ出れば、日はうららかに空は廣い、家の中は別世界だ。

そのやうに今までの紛紜はきつぱり絶縁して、新しい氣持になつて、お家の門をくぐらねばならぬ。



# 第五回フレーベル賞審査發表表

(幼兒唱歌)

豫て募集中の創作幼兒唱歌に對し多數の應募作品を寄せられ、いづれも熱心なる御好意に對し感謝に堪へません。前に發表して置きました通り、及川ふみ、岸邊福雄、葛原函、倉橋惣三、四氏の嚴密なる審査の結果、豫告規定通り、入選三選外佳作を決定しました。併し同點の結果、三等二篇になりました。その作品は順次本誌上に掲載します。尙ほ當選諸氏に對しては、規定通り、株式會社フレーベル館創業三十周年記念寄贈保育研究資金による賞品を贈呈いたします。遺憾ながら當選せられなかつた方々に對しましても、その御熱心に心からの敬意を表します。

- 一等 雨の子供
- 二等 お餅搗
- 三等 蟻の行列
- 三等 落葉
- 選外佳作

- お 約 束
- 僕 の 友 達
- ミ ツ ケ タ
- ほ ほ づ き
- 私 の お 役 目
- ド ン グ リ 兵 隊
- 植 木 屋 さ ん
- 旗
- オ ヒ サ マ
- 金 魚

- 廣島市舟入本町舟入託兒所 井手文子
- 岡山縣津山市 津山幼稚園 三谷綾子
- 東京市 ひぐらし幼稚園 土田千草
- 東京市 本郷第一幼稚園 辻 繁

- 函館市本派本願寺別院内龍谷幼稚園 河上フミ
- 東京市和田堀隣保館 毛利幸家
- 名古屋市立第二幼稚園 加茂孝子
- 群馬縣境町小學校附屬幼稚園 小田桐孝子
- 愛媛縣宇和島市愛和幼稚園 芝田忠子
- 水戸市五軒町五軒幼稚園 坪山義枝子
- 前橋市女師附屬幼稚園 吉井正子
- 東京市十文字高女附屬幼稚園 よ 井 子
- 岡山縣津山市津山幼稚園 三 谷 綾 子
- 静岡縣燒津町六二二ノ五 相 田 浩 利

# 審査員の方々から

## 應募者の熱意に感謝す

岸邊福雄

× 今回は、前回よりも應募数が更に多かつた爲に、審査するにも一段と緊張したのであります。

× 一人の保姆さんが二十篇も投じて下さつたなき、實に嬉しかつたのであります。

× 『作くれ、作くれ、作られるやうになる』  
× ミ、申すのが、私の激勵の標語であります。

× 今回の應募には、飛び切り優秀なのは、少なかつたが、いづれも素直に見たまゝ、感じたまゝを歌にしてありますのが多かつた事は、やがての進歩を期待し得るものとして、斯様な奨励的な應募法の繼續せられます事を希望する次第であります。

× 當選歌には、曲を附けるこの約束を、強く引き受けられた爲にか、字足は揃つてゐましたが、詩趣を窮屈にされたものがありましたのは、お氣の毒に存じました。

× 併し、碁の稽古も定石から始め、歌の稽古も音階から始める如く、童謡を作りますにも字足を揃へるなごの約束に縛られるも、稽古する人の順序ある課程かこ存じます。

× 多作元より禮讀いたしますが、高い香氣のある諸家の童謡を心をひそめて讀んで頂きたい。此頃の雜誌や或はレコードに吹き込んであります、童謡には童心に逆くものこして腹だたしく覺えるものも數あります。

× 手本は、高く仰ぐべきものであります。手近い間に合せものは模範とはなりません。其區別を十分に考へられますやう願ひます。

× 手本の選擇の出來ますやうになりますのも、創作の一順序でございます。

## 幼兒童謡の新作を選びて

葛原しげる

東京からの放送のうち、幼児の時間(午前九時四十五分からの)を、時々きいて、そのおはなしの多くは、幼稚園の生方らしいのが、まごころにお上手なので、午後六時からの子供の時間の、童謡の先生方のに比して、時に、却つて、優れてゐるのもあつて、まごころにくめたくも悦んでゐる。同時に、何かに散見する創作童謡の中にも、さうして、立派な作が、同じく、幼稚園や、今でいへば國民學校の先生方の中から、生れてゐるのを見て、同じ様に、まごころにくめたくも悦んでゐる私は、童謡こそは、幼児に一番よく接してゐる若きお母様の世界からこそ、生れて來べきである事を信じて年あり、しかうして、まごころに少數ながら若き母たる童謡作者が、ある事を、非常に悦んでゐるのですが、それと共に、健全にして、純真にして、溫雅なる幼稚園の先生方の間からも、たしかに、幼兒童謡は、生れて來なくてはならぬまごころを、機會毎に、話しもして來てゐるのです。そして、此度の多くの作品の中からも、私は次の數篇を、聲を大にして、推奨したいと考へて、高點をつけました。

「眼」——その昔も昔、大正の初期に、「お父様ねんね」いふのを作つて、本居長豫氏の作曲で歌はれたもので、取扱つた内容でもあるのですが、それは晝寢をしてゐるお父様の眼鏡をのぞいたら、私が、映つてゐたので、お父様は、私の夢をみて、ねんねしていらつしやる、いふのでした。これは、眼鏡でなくて、眼そのものに映る姿に、驚いてゐるのです。この不思議は、この驚異は、幼児にまつての神祕であります。そして、ボチにまで及んでゐるのを悦びます。

「なあぜ」——夜の空には、お月様とお星様が、いつも、いろ／＼の話題を提供し、多くの謎をもちかけてくれます。世界中、まごころの國でも、月、星は、大人の世界と同じに、幼児の世界のものであります。これは、やゝ、理窟がかつてもをりますが、第一節の疑い淋しみ、を、第二節で、解いて、賑やかに、まごころの手法は、くくいほご鮮かです。

「植木やさん」——何でもないまごころですが、すなほな、正直な、それこそ、純白無汚なる幼児の心の壁には、さんなに、うすい墨の色も、さんなに、うすい朱の色も、そのままだに色を残します。又、靜平なるまごころ山の湖の如き幼児の心の水面には、さんなに小さな雲の一片も、さんなに小

さな鳥の影も、うつりますし、そよみの風の流れも、小波をたてますのと同じく、幼児にまつては、大人の世界の何でもない事が、何でもまごころか、大變な事柄を以て、その心に、色をつけ、波を立たせます。この作の内容は、大人にまつては、下らない事かもしれませんが、おちて来る枝を拾つて、空を、見上げた、しかも、そうつゝ見上げたこいふデリカシイは、實に、幼児の心です——すなほな、正直な、純白無汚な心です。その心からでなくては生れない作です。

「おまつり」は、「鹽のプール」は、こりたてゝ申す事はありませんが、前者には、

赤いかつこで行きませう

母さんも一しよに行きませう

こありますのは、特に、近頃、私が、私の擔任の幼児達に、やかましく申して直させてをりますだけに、氣にかゝります。お宮や、お寺や、お墓へは、「行く」ではありませんが、「まゐりませう」でなくてはなりません。また、後者に、

サラ／＼冷たい如露の瀧

かぶれば涼しい風が吹く

は、少し、ませてゐるのですが、そして、まごころに、童謡はなれのした句もしますがしかし、すて難くて、私は、強く心をひかれました。

終に、全體について申します、幼児童謡に、長いこころ、暗いこころは大禁物です。そして、面白くなくてはなりません。その上、他愛もないやうでも、實は宇宙の眞理、また神祕に觸れた内容でありたいものです。又、作曲されるこころも考へて見なくてはなりませんので、幼児向に、明快な曲趣の生れて来る素地がなくてはなりません。

私は、かうした狙の下に、選を進めましたので、右の數篇を特に悦んだ次第です。作曲のこころ、幼児向のこころを重んじなければ、他に、推奨したいものが、幾篇もあつたのです。こもすれ、幼児教育者の中から、もつこゝ多くの幼児童謡と共に、幼児童謡が生れる事を、本誌の最近二回の募集だけに見ても、確信しますので、私は、本誌が、毎月、募集して下さるならば、少數でもの熱心な作者を、毎月、世に紹介しえて、幼児教育の世界は、こんなに幸であらうか、楽しみます。(一六、四、二六)

× × × ×

× × × ×

## 選後の御挨拶

倉橋惣三

今度は大層多くの方が応募して下さい、誠によろこばしいことでした。幼稚園等にこんな詩人の多いことは、流石に敬服しました。童謡は童話よりも短いもので、ちよつと出来るものゝやうに思ふ人もありませんが、童話は、或は考へでこしらへ上げることも出来ますのに、童謡は詩ですから、感興が涌いた時でない出来ません。ですから、この一篇でも貴いものに拜見しました。皆それ／＼結構ですが、募集の趣旨が、「作曲して子どもに歌はせるもの」にありまので、その条件にあるものを選びました。幼児の心を以て歌はれた詩に、詩として立派なものが澤山ありましたが、右の趣から選に入れませんでした。その點、悪しからず。

扱て、これで昭和十二年から続いたフレール賞懸賞の計畫を一段とします。童話三回、童謡二回、手技一回で、それ／＼、いゝ作品をお寄せいただきます。此のフレール賞はフレール館の創業記念祝ひの爲、同社長高市氏が、幼稚園界へこの志によつて金一千五百圓を寄附され、それを日本幼稚園協會に委託せられたことによつたもので

す。こゝに一段落を終るに共に、各回応募して下さい方々によつて、高市氏の幼稚園界振興の志も達せられたこと、欣びにたへません。こゝに高市氏のために喜ぶと共に、又その間、審査に當つて下さつた諸先生に更めてお禮を申し上げます。

尚ほ序に申上げ置きますが、応募作品のすべてを皆、審査員方に見て頂き、その採点を平均し、その順位によつて選を定めました。その爲、或る審査員が大いにいゝ點をおつけになつたものでも下になつたり、又その反対のこゝもありません。ですから選外の人もその特長は認められてゐることです。但し、等に入つた方々は、大體、この審査員の點も揃はなくは、かう上位になりますまい。そして同點で一方のみを探り難く、規定には違ひましたが、三等が二ツ出来た譯です。めでたい。

× × ×

× × × ×

---

# 一等雨の子供

井手文子

一、雨の子供はげんきだな  
トタンのお屋根で

トンカラリ

クルく廻るお傘にも  
ピョンくはねては

トンカラリ

二、雨の子供はげんきだな  
手拍子三つては

トンカラリ

ヒンくお馬のおせなにも  
ピョンくはねては

トンカラリ

二等才餅搗

三谷綾子

一、ペツタン

ケフハ

シロイ

セツセト

ウレシイ

オモチヤ

ツキマシヨ

ペツタンコ

オモチツキ

マメノモチ

ペツタラコ

二、ペツタン

ケフハ

マルイ

セツセト

タノシイ

オモチヤ

ツキマシヨ

ペツタンコ

オモチツキ

ナガイモチ

ペツタラコ

三、ペツタン

ミンナ

ムカフ

セツセト

ニコニコ

ハチマキ

ツキマシヨ

ペツタンコ

オモチツキ

タスキガケ

ペツタラコ

# 三等 蟻の行列

土田千草

一、暑い真夏の真晝時

蟻の行列 長がいな

何處から何處まで行くのだらう

横も見ないで 通つてゆく

二、暑い真夏の真晝時

蟻のお荷物 何だろな

何處から持つて來たのだらう

重さうにしつかり かついでゆく

三、暑い真夏の真晝時

蟻のおみこし ビスケット

何處で見つけて來たのだらう

皆でわつしよい かついでゆく

三等落葉

辻

繁

一、カサ カサ

カサリ

木の葉が散るよ

風もないのに

ヒラヒラ舞ふよ

二、カサ カサ

カサリ

木の葉が散るよ

お手々ひろげて

ソラソラ追ふよ

三、カサ カサ

カサリ

木の葉が散るよ

赤や黄色が

ヒラヒラ舞ふよ

四、カサ カサ

カサリ

木の葉が散るよ

葉つば被つて

ソラソラ追ふよ

# 避難兒童養育所

— 適當なる設備の不足 —

附屬幼稚園 志村貞子

千九百四十年一月九日、教育局及び保健局が、避難民收容地域に於ける避難兒童養育所（教育局報一四九五號、保健局報一九三六號）をいふ表題で、政府の計畫の下に避難してゐる、學齡前の幼兒時代に於ける社會的訓練を業務の爲の養育所の設立を懇願する共同通牒を布達して以來、今年一年にならうとしてゐる。

その通牒には、養育所は、託兒所と幼稚園の中間物を提案され、その設立の方法、設備、職員、支出、収入に關する意見も餘すところなく述べられてゐるが、またその計畫に於ける避難兒童收容地域の地方當局、即ち、教育當局、保安局、收容當局、及び特志家による役割も示されてゐる。また、宿泊地、設備、職員及び養成所の管理に關する從的な義務の遂行について、特志家の盡力に俟つものが多大なることも指摘されてゐる。次代を擔ふ子供の生活の上に、

眞に重大な影響を與へるこの種國家的奉仕は、子供達が、戰爭の間安全に過すために避難してゐる地方の「好意ある人々」に特に訴へはしないか述べてゐる。

この通牒が發せられて以來、更に多くの、子供を連れたい母親、又附添のない子供達が、ロンドンや、他の危険な地域から田舎へ避難して來てゐる。その或者は、幸福に居を定めたが、田舎に残された多くの子供達の生活は非常に困難であつた。個人の小さな家——子供達の多くは、小さな家に宿つたのであるが——は、あちらこちら歩き廻つたり遊んだりする場所を必要とするこの小さなお客様達に限られた場所だけしか提供出来なかつた。家の主婦達はかういふお客様の絶え間ない活動性に當惑し、その仕事を妨げられた。かくて子供達は殆ど一日中、文字通りその住居から追ひ出され、家もなく、友達もなく、彼等にまつて殆ど外

國のやうな街や小路をさまよひ歩くさいふ悲しむべき結果が多くみられたのである。國家の事業のかゝる結果に對して、避難兒童收容地域の居住者は、避難地の主婦や、避難兒童の母親や、その子供自身に課せられた勞苦を和らげるために、養育所の設立を急がうさいふこころを考へたかもしれない。しかし、不幸にして事實は失敗であつた。十二月に僅か六ヶ所の養育所が開設され、三ヶ所或は二ヶ所が共同通牒の布達前に具體化された。更に二ヶ所が間もなく準備出来るであらう。そしてその他、七ヶ所又は八ヶ所の養育所が計畫されてゐるを報ぜられてゐる。これが、「仕事は出来るだけ早くせねばならぬ」さいふ訴に對する答なのである。

何故仕事が後れるのか？ 政府當局が重大且根本的なものとして示してゐる一計畫に對する關心の、この不思議な除外には、幾つかの理由があるやうに思はれる。或る土地では、反對論は、母親は外部の助けなしにその子供の世話が出来る筈であるさいふ見解に基いてゐる。しかし不活動の主な原因は、共同通牒に對する無智さ、通牒が養成所の設立及び維持の爲に、避難の費用を給與する效力を有するこころに就いての無智によるらしい。一度養育所が開設されれば一般の關心は覺醒せられ、援助がなされるであらう。

最初の方法は簡單である。先づ、養育所の經營、管理の

責任を負ふために、教育當局、保安局、收容當局の代表者及びその他の關係者より成る非公式な委員が召集されねばならぬ。もしその養育所の設備が少くとも子供五十人分必要であるをすれば、教育局検査官は指導し援助を與へに來るであらう。

計畫は野心的であるこころを要しない。通牒は、各々の養育集團に二十人以上の子供を收容してはならぬ、そしてその場所は子供達の住居に出来るだけ近くすべきであるを命じてゐる。訓練を受けた幼稚園の保姆は、それぞれ子供に對する知識と理解に就いて選ばれた一人の附添人の下にゐる養育所二ヶ所又は三ヶ所の監督が出来る筈であるさされてゐる。ギルドフォードでは優れた養育所が一個人の家の應接室に於て開設せられた。その家の所有者はまたその庭園も養育所の自由な使用に提供した。幼稚園の訓練を受けた保姆が主任で、技倆のある特志家をその周圍に集めてゐる。子供達には最上の晝食が與へられてゐる。私がこの養育所を訪ねた時の晝食はチーズソースと野菜、それに乾果物とカスタードでつくつたパンのブディングであつた。この養育所は始められてから約三週間にしかならないが、子供達はもう蓄音機の陽氣な曲に、タムバリー、太鼓、鐘、ダルシイマア、トライアングル、笛等をあはせて一種のリズムを現はしてゐた。

これらの養育所は、私の見て来たところでは、監督者や援助者の選擇に就いて恵まれてゐるやうに思はれる。子供達が如何にも楽しく仲好く過してゐることは、彼等がその環境に信頼してゐることを示してゐる。子供達は手許にある仕事に熱中し、また用意してある種々の業務に對して多大の喜びをもつてゐるらしく思はれる。多くの特志的な援助がなされてゐて、時には、病院の看護婦か幼稚園の看護婦になりたいたいと思つてゐる中等學校を卒業したばかりの少女達から申し出がある。備品はロンドン郡會や他の當局筋から支給されてゐる。近くの學校は子供達の爲に可愛い、作業上衣を作り、それに色のついた綿布の鳥や獸をつけて區別してゐる。それによつて子供達が自分のものを見別ける爲である。これと同じ様な印は、齒ブラシや櫛やタオルにもつけてある。綺麗に彩られた器具や玩具は後援者から與へられてゐるが、このやうな贈物をもつて澤山必要である。二ヶ所の養育所では、子供達の附添人だけでなく、料理人や食事の給仕をする人々も奉仕的に働いてゐる。

あちらこちらで俱樂部が現に母親達の爲に經營されてゐる。或る母親は養育所を通じて仕事をみつめてゐる。養育所で洗濯や繕ひを手傳つてゐる母親もあり、またじつしましても居れるのに仕事をみつめて、街を當もなく歩く代りに有益に時を過してゐる母親もある。母親達は拂へるだけ支

拂つてゐる。或る母親は週に二志六片を工面してゐるが、これは食費になつてゐる。避難費としての下附金では全く支出を償へないのである。地方的な寄附は教會及びその他の人々によつてなされる。

私のみた養育所は、理想的な家庭であるとはいへないであらうが、大層美しい立派な建築であつた。最初の家は何階もあつた。二番目ののは、美しい部屋があつたがこれも二階建てであつた。三番目ののはバンガロー建築であるが晝食を調理する準備がなかつた。一般に、熱湯は引かれてゐない。別々に供給されるのである。宣傳のために少くとも二ヶ所の標準的養育所の設立が必要である。金錢は浪費されてはならぬ。養育所は、教育の部門において常に増大してゆく重要な役割を演ずるであらう。

もしも希望通りに養育所が増加すれば、正しい性質の、信頼すべき多くの特志的援助を受けることが難しくなるかもしれない。適當な婦人及び少女達にまつて、今や、母子保護委員會の授ける十分な訓練の過程につくことが可能になつた。この過程を終了するに合格者は認可學校で、實際教育に少くとも五十時間従事することを要求される。それから保母見習の地位につくのである。こゝに於て現實の國家的重要事に盡す機會が與へられるのである。

# 動

# 物

# 園

誘導保育の主題

附  
屬  
幼  
稚  
園

町田 行子

動物園云つても木製の動物ならぬ、古葉書・空箱利用の新體制動物園がひらかれました。これは保姆があらかじめ材料を揃へて働きかけたものではなく、こども遊びの中から自然につくられて行つたものでございます。

こどもたちは紙のおすまうを立て、そのまはりをドクドク叩いてお相撲ごっこをするのが大好きでありました。その形を葉書にうつしては自分の力士をふやし、めいめいのお抽出しにしまつて大事にくして居ります。あるとき、ひごりのこどもが葉書をまるいうづまきに切つて蛇を作り、これでお相撲をまらせ始めました。する

早速その真似をするこども。

「蛇よりライオンの方が強いね」

「アツ、象の方が力が強いからおすまうは強いでせう」  
對抗してくるこども。

この様な會話から、動物園のいろいろの動物について話合ひが始められました。そして動物園を作つて、動物におすまうをまらせたり、運動會をひらいたり、お家ごっこをさせたりするこごにきまりました。

選手用には強い動物を作りましたが、女の人達は小さい動物やきれいな水鳥が好きです。いくつかのグループにわかれ、數名が共同して動物・家・かこひ・名札・餌なごをつくりまします。

## 動物

觀察用に繪本や寫真をおいておきます。

大抵の動物は古葉書を二つ折にして形をかき、二枚一緒

に切つて立たせませす(及川先生の昨夏講習會の動物型紙)。これはごまがひきりで、好きなものがやさしく作れます。

蛇 うづまきに切り、中心の方を持ちあげてまぐろをまいてゐるまぐろにします。

兎 ギンナンを平におき、桃色の色紙で耳を貼り、眼をかきます。

孔雀 ちり紙に色をぬり、鉛筆にまいてちりぬりめん紙をつくり、下をちりぬりせてひろげた羽根の形にし、葉書で作つた體に貼ります。

鶴首、脚の部分には割箸を用ひます。

### 動物の家

ライオン・虎の家 空箱を用ひて檻を作ります。岩は新聞粘土で作つたり、廣告紙を茶色か黒色にぬりガサガサにおいた紙の上からかぶせて岩らしくつくります。

出入口の開戸の把手には、桐の實又は豌豆をつけます。象の運動場 藝當をさせる飛石を新聞粘土で作ります。

又、ポスターカラーやインク瓶の口のキルクをそのまま用ひてもよろしいと思ひます。

キリン、ラクダ、ウマ、ウシ、ブタ、カンガルー、ヒツジなどの家 家さかこひの柵を作ります。柵は箱のふちを一種幅位づゝ間をおいて切りおきして之を縦木に

し、たちおきしの分を横木にして縦木に一つおきに内外々々まきませて通します。

兎・うすの家 お菓子箱などのつめものゝ緑色の細いセロファンを草に致します。又時期によつては芒の穂をしいてもよいと思ひます。

小鳥の家 ボール紙の土臺にキビガラ(又はダンボールをまいた筒)を立て、小箱をのせます。巢はせきもの等のつめもので作ります。

檻の名札には経木の折を切つて、墨でかきます。

入場券は一枚づゝ動物の繪をかい作りました。その切符を買つて入園し、自分の力士や選手をつれ出して、お相撲、かけっこ、高きびなき思ふまゝに動かして遊んで居ります。

# ならびませう

附屬幼稚園 上遠 文子

一列にならびませう。「一列勵行」の聲は驛頭に、街頭に私達は屢々否毎日耳にし、毎度實行してゐる言葉である。園児達も登園の途中、林立した大人達の間小さな體軀をうすらせて電車を待つてゐる事だ。

さあ幼稚園に着きましたよ。もう随分來ていらつしやるわ。前の方がお靴の取替をはるまで列んでお待ちしませう。「A子さんおはやう」僕の後に列んでゐるんだよ。お空は綺麗に晴れて、鯉のぼりは五月の風を一杯吸ひ込んで面白相に泳いでゐます。日の丸のお旗も鯉のぼりに負けずになびいてゐます。まあいい氣持!

僕おすべりに行かうつこ。ジャングルで鬼ごっこしやう。B子ちゃんブランコにゆきませう。乗せて頂戴な。かはり番だからC子ちゃんの後になら

んで。一つ、二つ、三つ、四つ、五つ……………。  
乗せて。駄目よそんな所に入つちや。順々にならぶのよ。十一、十二、十三……………。

ボー汽車が走ります。ご順におならび下さい。大阪行急行列車が發車致します。お乗りの方はご順にねがひまありす。いゝですか。よく前の人の肩につかまつて下さいすべりませうよ。ボーピー シュツシュツシュツ……………。

海の組おー入り。海の組おー入り。

お道具箱出して來て、昨日の續きの郵便屋さんごつこをませう。Cちゃん、僕が出してんだから 駄目だよ。竝んで待つてゐないさいけないんだよ。

今日はB子ちゃんCちゃんが郵便屋さんになる番ね。皆んなでお友達や兵隊さんにお手紙かきませう。あら、お家に葉書がなくなつたわ。葉書下さい。切手下さい。私にも下さい。僕にも私にも、あゝ忙しい〜。混みますから列んで下さい。ならばないさあげませんよ。

ラヂオ體操がすんでみんなの大好きなお辨當。

海の組お辨當、海の組おー辨當。  
僕が先に來たんだよ。僕だよ。ちがふよ僕だよ。ぢやあ、

ぢやんけんしませう。ぢやんけんぼん。勝つたからAちやんが一番でBちやん二番ね。走らない様にバスケット取つていらつしやい。長い汽車の様にお部屋から小さい列が續いてる。もうAちやんはバスケットさげて出て来ました。次々、元の様に長い汽車はもぎつて来ました。

「おうがひの水ついで下さい」。此處にも、長い小さな箱の汽車がお部屋に出来ます。一人々々汽車の長さが短くなつて来ました。「兵隊さんありがたうございます。いただきます」僕は卵。私はのり巻。おいしいな。

うれし相に大きなお口をあけて、おいし相にお口を動かしてゐます。

お辨當すんだら繩飛びしませう。

「お嬢様お入りなさいジャンケンボン。負けたらすぐにお出なさい」。すんだ方は後。「大波小波ぐるつこまはつて猫の目」。「入れてちようだい」。Eちやんの後にならんでみらつしやい。一つ、二つ、三つ……。

ブランコでも、繩飛びでも、リレーでも、皆ならんでゐて、幼稚園の御庭の所々に短かい汽車が止つて居ります。

海の組おー歸り。又長い汽車がコートを取りに出掛け

ました。歸りはお荷物一杯持つて歸つて来ました。コートを着てお帽子を被つて、バスケットを持つて又々汽車は出掛けました。さよーなら、さよーなら一人づつ汽車が離れてゆきます。

幼児達もかうして毎日一列を勵行して居り、もう此頃は言はれなくても自然に並ぶ様になりました。中に時々忘れてしまふ幼児もあります、がしひてまがめる事もありません。遂には習性になり、成長したあかつきには、利己主義的な先争ひは自然に消滅してゐる事でありませう。並ぶ事事はさゝやかな事ですが、やはり必要な事もおもひます。

× × ×

× × × ×

各地保育  
會の活動

# 香川縣保育會概況

高松市中央幼稚園 久住元子

## ◎香川縣保育會規定

- 第一條 本會ハ縣下各幼稚園相互ノ氣脈ヲ通ジテ保育上ノ研究ヲナシ兼テ會員ノ親睦ヲ計ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ縣下公私立幼稚園關係者ヲ以テ組織シ會員ヲ左ノ二種ニ分ツ
- 普通會員 縣下幼稚園在職保母
- 特別會員 縣下幼稚園々長園主其他幼稚園ノ關係者乃至保育上特志者
- 第三條 本會ハ縣下保育事業ノ功勞者若クハ名望家ニシテ本會ニ裨益ヲ與フルモノヲ名譽會員トス
- 第四條 本會ハ會長一名、副會長二名、幹事十名ヲ置ク
- 正副會長ハ總會ニ於テ選舉シ幹事ハ總會ニ於テ普通會員中ヨリ選舉シ幹事ノ互選ニ依リ幹事長ヲ定ムルモノトス
- 第五條 正副會長、幹事長、幹事ノ任期ハ之ヲ二ケ年トス
- 第六條 幹事ニ缺員ヲ生ジタルトキハ役員會ニ於テ補缺

選舉ヲナスモノトシ、補缺幹事ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第七條 會長ハ會務ヲ總理シ副會長ハ會長ヲ補佐シ會長不在ノ時ハ之ガ代理ヲナシ幹事長ハ會長ヲ補ケテ會ノ常務ヲ掌理シ幹事ハ會務ヲ分掌ス

第八條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク其日時及場所等ハ其都度會長之ヲ定ム

但シ必要ニヨリ臨時ニ之ヲ開會スルコトアルベシ

◎第十條 本會會員役員ニシテ保育上功績顯著ナルモノハ別ニ定ムル功績審査委員會ノ決議ヲ經テ本會長コレヲ表彰スルコトアルベシ

第十一條 本會々費トシテ普通會員ヨリ毎月金拾五錢ノ割ヲ以テ徵收ス

但シ總會毎ニ出席ノ有無ニ拘ラズ一ケ年前納スベキモノトス

第十二條 本會ノ事務所ハ香川縣表誠館内ニ置ク

第十三條 本會經費收支決算ハ毎年總會ノ時ニ之ヲ報告ス  
ルモノトス

◎本會役員

|     |             |        |
|-----|-------------|--------|
| 顧問  | 坂出女子師範學校長   | 井東 豊彦  |
| 同   | 高松市視學       | 大西 郁二郎 |
| 同   | 丸龜市視學       | 石井 元八  |
| 同   | 香川縣教育會主事    | 瀨尾 完太  |
| 會長  | 高松中央幼稚園園長   | 田中 徹雄  |
| 副會長 | 坂出女師附屬主事    | 兒島 席三郎 |
| 同   | 高松和洋裁縫女學校長  | 久住 元子  |
| 同   | 高松天神幼稚園園長   | 矢部 菊子  |
| 幹事長 | 高松中央幼稚園保姆   | 宮藤 チズエ |
| 幹事  | 坂出女師附屬幼稚園保姆 | 池田 章子  |
| 同   | 北ノ平幼稚園長     | 笠原 千代子 |
| 同   | 丸龜市西幼稚園長    | 藤井 政子  |
| 同   | 丸龜市東幼稚園長    | 木村 由紀  |
| 同   | 小豆郡草壁幼稚園保姆  | 大黒 清   |
| 同   | 大川郡丹生幼稚園保姆  | 山田 イト  |
| 同   | 高松龜阜幼稚園保姆   | 須藤 滿壽榮 |
| 同   | 高松西濱保育所     |        |
| 同   | 高松中央幼稚園保姆   |        |

◎會の申合せ

香川縣を高松市以東を東部とし(小豆郡を含む)坂出以西を西部とし毎年交代に總集會を開き會場は各園順次申合せ

にて引受け、日時等は引受け園の都合によりて定むる事とするも大體春ならば五月頃、秋ならば十一月頃とし、役員の協議に依て定む

◎役員會

役員會は總集會の前に開き、萬般の打合せを爲し經費の豫算等を議す、尙必要ある場合は臨時に開く

◎總集會

年一回の總集會は、東部、西部、交代にて時に琴平町、高松市、又は小豆郡、引田町、坂出町ニ順次縣下を廻り、土曜、日曜の二日に互りて開き一日は兼て持ち寄りたる議題を研究討議し一日は其園の保育竝に施設を見學、又其地方の名所、工場、風物等を視察し互に見聞を擴む、昨年十二月高松市に臨時總集會を開き、紀元二千六百年の行事として本會々長瀨尾完太先生に感謝狀を贈呈して亦縣下永年勤績功勞者を表彰して記念品を呈す

◎經費

規定の如く一人年額壹圓八拾錢也の割にて總集會毎に前納し、總集會の費用は其内にて(約三分の二)支辨し殘餘は蓄積して保存し時々講習等を開催す

◎會誌

總會には前回總集會以後の行事及經費の收支、會員の異動、其他役員氏名、會規等を明細印刷に附して會員に配布

し會の狀況を知悉せしむ

◎本會沿革

明治四十三年八月二十二日高松中央幼稚園に縣下の保母集り香川縣保育會創立の件を議し其會を以て直に第一回香川縣保育總集會と爲し會の規定等を協定す、會する者僅かに九園保母十四名爾來回を重ねる事三十回園數六十五會員一百名を越ゆ、決して盛大とは謂ひ得ざるも最初を知

れる者の眼には轉た隔世の感あり尙逐年増加の氣運を見せ  
てゐる事は慶賀の至りなり  
右の通り四國の一端に牛歩を續けてゐます  
僅かなれ共本土と海を隔つる爲文化の遅れる事は餘儀なし  
しするも保育に身を措く者の爲研究の資料、先賢の指導等に不便を歎じて暮してゐます

東京市麴町區の保育會ではいろ／＼活動せられて居りますが、その事業の一つとして、保育會誌を發行して居られます。

それには、區内の各幼稚園の園長先生始め保母の方々が、幼稚園の父兄の方々に語らねたい事を、いとも懇切に丁寧に書かれてございます。一年一回發行、父兄全部に無料にて配布せられる由。御參考までに先般發行になりました會誌の目次を次に御紹介致して置きます。かゝる活動は、麴町だけでなく、廣く全國の各地保育會でもなされますやうにと、お噂を致したことでした。

(編輯係り)

口繪

卷頭言……………麴町區保育會長 萱場 順 治

保育論 墓

時局下保育者へ希ふ 麴町區教育課長 井手 光 治  
幼兒の躰に就て 富士見幼稚園長 武藤 光 太郎  
幼兒の文化能力 香町幼稚園長 岡井 二 良  
反省と向上 東郷幼稚園長 金 田 義 種

自然の觀察

麴町區役所 鈴 木 國 右

保育衛生

幼稚園では幼兒の齒科衛生を  
どんな程度にすべきか 麴町幼稚園長 竹内嘉兵衛  
風邪漫談 東京市衛生技師 岡 田 信 六

保育春秋

幼稚園生活から學校生活  
へのつらなり 永田町幼稚園長 山 内 俊 次  
幼稚園の觀察といふもの 麴町幼稚園保母 柴 田 み どり

親心そして子こゝろ保母のこゝろ 富士見幼稚園保母 山 村 き よ  
お母様方へ申し上げます 香町幼稚園保母 德 久 智 江 子  
幼兒の數觀念に就いて思ひのまゝ、東郷幼稚園保母 藤 澤 壽  
子供の「叱り」に就いての隨想 香町幼稚園保母 岩 本 と よ

保育觀察

長野、新潟めぐり 富士見幼稚園保母 石 黒 悅

# 月刊「幼児の母」に就て

幼稚園の家庭教育指導のはたらきの一助にも、昨年一月、月刊「幼児の母」を始めてから、もう二年になります。毎號甚だ不出來ですが、それでも廣く各地幼稚園の御賛同を得て、月々、保護者へ配つて下さる方が多くなりました。

あんな小さいものですが、従つて内容も簡單至極のもので、毎月一萬數千のお母さんに讀んで貰へると思ふに、大によろこんでゐます。ほんの四頁さいふのもの、忙しいお母さんの立讀みにもさいふ、初めからの計畫で、手にされる方は皆、讀んで下さることに、これが何よりなのです。

就ては、從來の方々は勿論おつづけ願ひますし、新らしい方々にもお願ひいたします。尙ほ、今までは毎月「幼児教育」で御覽の上の註文を本體に願つてゐましたが、もう大體お分り下さいましたことと思ひますし、月々の御申込みは、皆さんの方にも御手数が多いことですから、半年分なり一年分なりまとめて御注文下さるやう願ひます。當方でも印刷部數の豫めきまつてゐるのですが、時節柄必要になりましたのです。それで新しい幼児の入園から新たに御配布の方も多いと思ひますから、四月を初めとして、四、五、六、七、三四月を一期、九、十、十一、十二、三四月を第二期、一、二、三、三四月を第三期としてまごめ

たが御便利かと思ひます。一年拂は十一月分。

## 申込規程

一、御註文は十部を一單位として、實費を左の通り申受けます。

○十部 金貳拾錢(二部貳錢)

○送料 十部まで三錢 二十以上送料不要

○十部以下の端數はおこしはりします。

一、御註文の節は部數は何ヶ月分さいふに、御送り致す宛名を特にはつきりお書き記して下さい。

一、右御註文のお申込みと同時に必ず前金でお拂込み下さい。本會の振替口座(東京一七二六六番)をお用ひ下さるのが御便利です。

一、お申込みお拂ひ込みは、東京市小石川區大塚町東京

女子高等師範學校附屬幼稚園内、日本幼稚園協會宛。

序に甚だ立入つたことですが、御利用の仕組は(イ)幼稚園が保護者に無料で配布される場合、(ロ)實費を保護者銘々の負擔さなる場合、(ハ)幼稚園内の保護者會或は母の會等が費用の負擔をなされる場合等、その他いろいろの仕組があらうと思ひます。

充分御利用下さい。



昭和十六年  
五月

## 母のたのしみ

母のたのしみは、我子の世話をすることです。可愛がるといつて、撫でたり、さすつたりしてゐるだけなら、他人でもする子ども好きに過ぎません。親といふなかでも、父の場合は、大低そんなところでは、母の場合には、自分から我子のための面倒を、あれこれと手がけることにあります。面倒とは、よそから見ると話で、その面倒が何よりたのしいのです。

お子さんが幼稚園へ入園されてから、その面倒、すなはち母のたのしみが多く

なりましたでせう。朝々の仕度く。着物のこと、いひ、お辨當のこと、いひ、幼稚園へ出すことは、いろ／＼と手もかけられることです。うるさいから、幼稚園へでも追つばらつて置けといふのではありません、それどころか、よく遊べるように、いゝ栄養のとれるようにと、母の手は却つて多くかゝつても來ませう。

幼稚園へ入れてから、もう一とつきたちました。幼稚園になれて來たのは、お子さん許りでなく、お母さんも、幼児の母として、だいが慣れて來られた譯です。そして、日増しに、いゝお母さんとしてのたのしみが多くなつて來たでせう。

× × ×

## 幼稚園から

○もう此頃では、お子さん方も幼稚園になれて、楽しく遊んでゐられます。幼稚園は、いつでも楽しく遊んでゐるところですが、初めの間は、殊に遊び第一といつていゝ位にしてゐます。ですから、お歸りになつて、けふ何をしたのとお尋ねになつても、お子さんは、たゞ遊んだだけですから、何をしたとも答へられないでせう。けふは何を習つて來たのかなどと訊問されたら、習つて何？とびつくりされる位でせう。

○だん／＼唱歌や遊戯も初まり、自然あれこれと覚えるといふことも始まりますが、それは、習ふといふよりも、その時々、一ぱいの樂しきで我れを忘れてしてゐることですから、稽古ごとのやうに、うちへまで持つて歸つて、おさらひしたりするものではありません。興のつゞきで自分でする時の外、餘り尋ねたり、させたりしないで下さい。

## わが子を良い子に

五 「小さい利己主義者」

倉橋 惣三

母の  
講坐

前の月にお話した、「人といつしよに樂しめる子」といふことを、もう一度裏かへして考へて見ませう。すなはち、人といつしよに樂しむことが出来ないのは、何によるのだらうかと考へて見ますと、それには、いろ／＼の理由原因もあることです。性質が内氣の爲といふ時もありませう。境遇の關係で、所謂人なれてゐないといふこともありませう。しかし、その一番大きな理由をなすものは、利己主義的な性質といふことにあります。勿論、幼い子どもに、利己主義なんて、大げさ過ぎた言葉ですが、どうかすると、随分、利己主義者がゐるものです。但し、心理的にいへば、子どもは一應主我なもので、修養の積んだ聖人のやうな利他主義が、子どもに求められる筈のものではあ

りません。我がまゝ、身勝手、それは子どもらしいことでこそあれ、さう／＼苦むべきことではありませぬ。しかし、それを超えて、自分の損徳に餘りにも敏感であつたり、我慾が強過ぎたり、その結果、人に幸福を分つことが全く出来なかつたり、さういふ傾向の著しい場合になると、充分注意しなければなりません。途には、こすい子、づるい子、といつたところまでゆかないとも限りませぬ。かういふ子が、人と樂しめないのは言ふまでもありませんが、たゞ、それだけでなく、子どもの世界でも、おとなの世界と同じで、除けものにされます。子どもはよく、「誰れはづるいよ」といふことをいふものですが、あれは、つまりは、利己主義だよといふことです。そして、

手製  
榮養 お八つ厚生醫學研究所  
國民榮養部 佐々木 理喜子

新緑かほる五月の 大空に泳ぐ鯉のぼり、  
興亞の時代にふさわしい柏餅を作つて御祝ひ致しませう。

【柏餅】

材料 道明寺二〇瓦 甘露五〇瓦 砂糖五瓦 柏の葉 以上で一五一カロリー  
作り方 道明寺は乾飯様のもので、田舎の家や、臺所の始末をよくする家には作つてあります。都會では乾物屋に賣つてゐましたが、ない時には片栗粉を代用していただきます。さつまいもを蒸して潰し砂糖と少量の鹽を加へて味を調へます。適當の大きさに小判形に平に作り、道明寺を全體にまぶし附け、蒸器に濡布巾を敷き、其の上に並べて十五分位蒸します。柏の葉は古葉は一寸と茹で置き、蒸す時に包みます。新葉はそのまゝよく洗つて用ひます。片栗粉の代用は、餌によくまぶして蒸し、(此の時は下に經木を

仲間はずれにされるのです。

ところで、斯ういふ傾向のあることは、幼い時に人と樂しめないといふ許りに止まらず、ゆく／＼、その性向が募ると共に、人間として、甚だ好ましくない性格にならなれども限りません。その點、實に憂ふべきことです。ですから、假りに

も斯ういふ傾向の強くないやう、早くから周到な注意が必要です。殊に、さういふ子は、大抵、こゝ者で、うはべは甚だ勝れて見えることが多いのですから、一層の注意が必要になるのです。そこで、幼い子どもが、何故、そんなにも

利己主義者になるか、そのまた原因を考へて見ますと、非常に薄俸な境遇なぞにあつて、いつも／＼自分を充たすことが出来ないといつた時、その不自然から、利己が強められたりすることもありません。しかし、それとは全く反対の場合で、あんまり、思ひのまゝにされて、自分天下になり、傍の人のことなど思ふことが出来なくなり、そこから利己が募つて來

ることも少くありません。たえず、ちやほやされて育つた者、獨り子といつた場合によくある例です。ですから、私の満足を適當に、すなはち、過不足のないやうに指導してゆくことが、極めて大切なことです。

しかし、これらよりも、もつと恐ろしい原因は、親の利己主義的生活態度が子どもに、識らず／＼うつつてゆくことです。何んでも親の性質は子に傳はるものですが、わけても、利己的性質の傳はり方は、最もきめんのやうです。

親の利己主義といつて、さう／＼何事にも利他的といふことはむづかしいこととせう。わたしも茲で、そんな立派なことを話してゐるではありません。ただ、我が子本位の態度が餘り露骨に出ることが何より悪いやうです。友達をしのぐやうに、しのぐやうにと、いろ／＼のことを仕向けたりますのです。わけても、我が子の爲のゑこひいきが、我が子を、利己主義にする事は、随分多いやうです。

敷く)後で柏の葉に包みます。皮がはげない爲であります。

#### 【落花生まぶし】

材料 お冷御飯半杯(米で約三〇瓦)片栗粉六瓦落花生五瓦砂糖五瓦以上で一七三カロリー

作り方 お冷御飯や少し古い御飯を利用致します。搗鉢でよく搗り、片栗粉を加へてよくかきまぜます。少量の鹽を加へます。つみ入れの様に著でちぎつて、お湯の中で茹ます。落花生はよく摺りつぶして、ピーナツバタの様にして、砂糖と鹽を加へ、之れをよくまぶしつけ、小皿に盛つて、ホークを添えます。

#### 【フルーツサラダ】

材料 バナナ 五〇瓦、櫻桃二〇瓦、林檎五〇瓦 食パン 三〇瓦 牛乳二〇瓦 砂糖五瓦 以上で一六〇カロリー

作り方 バナナ、林檎は程よく切り、櫻桃は二切りにして種子を出します。食パンは五分角に切ります。牛乳を水で二倍にのばし、砂糖と鹽、少量のメリケン粉を入れて白いソースを作り、材料を盛合せた上にかけます。

## 我子の比較觀察

幼稚園の入園の最初の日、今まで我子ひとりしか知らなかつたお母さんが、世の中にはいろ／＼の子どもがあることを知つて、目を丸くしたり、鼻を折られたりして、びつくりするお母さまが珍らしくありません。うちの子は随分よく發育してゐると思つてゐたら、なんといふいい體格の子が、澤山ゐるのだらう。うちの子こそしつかりしてゐると思つてゐたら、なんといふいゝ性質の子が、澤山ゐるのだらう。その他何々々と、感心させられて仕舞ふことがあるのです。但し、さういふ中でも、やつぱり、うちの子が天下一品だと、得々とされてゐる幸な方もありますが、折角の幼稚園へ出して、我子の自慢だけでも、あんまり單純過ぎた話でせう。

そこで、幼稚園入園一ヶ月ともなれば、人の子の中に我子を置いて見た時の、

比較觀察といふものが、正しく出来なければなりません。優劣をきめるばかりに比較したのでは、つまりません。況して、うちの子がよその子より劣つてゐるのを見て、くやしくてならん。更に進んでは、その優れてゐる子が、にくらしくてならんといふのでは、誠に以てつまらないこと此上ありません。

人のなり見て我がなり直せといふことは、自分といふものだけでは、自分といふものが分らない。よその人と比較して、自分の短所を氣がつくといふ意味ですが、我子といふものに就ても、同様に比較研究によつて、その特色が、よきにつけ悪しきにつけ、はつきりせられるのです。そして、よその子のいゝ處に感心しては我子の足りないことを思ひ、なるほど、あゝもなれるものかと、教育の方向も心づいて來る譯です。幼稚園に出してから、我子がどういふ子かといふことが、はじめて分つたといふお母さんは、それだけでも、幼稚園を大いに利用されたといふ譯になります。小さい時から見なれてゐる我子の性質は、分つたやうで分らないものです。それを、つまり、人中で、見なすことが出来るのです。

それから又、たゞに比較といふばかりでなく、家庭で膝の上に置いてのみ見てゐた我子が、いろ／＼の子どもの中でいゝるの姿をあらはすのを見て、我子には、あゝいふところがあつたのかと、今にして改めて驚くこともあるものです。なんといふ我まゝものだらうと恐縮させられたり、なんといふ意氣地なだらうと恥しくなつたりするのです。専門的な兒童觀察法としても、子どもは子ども群の中でないと眞の姿を見られないといふのが、近來の學説ですが、それを、最も生き生きした場面で見せて呉れるのが幼稚園です。

お母さん方、お子さんが幼稚園になれて來た二ヶ月目、幼稚園へ來て、うちの子ばかり見てゐず、ほかの子どもをよく見て、うちの子を比較研究して下さい。

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長

東京女子高等師範學校長

下村壽一

主幹

東京女子高等師範學校教授

倉橋惣三

附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査

一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介

一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 會務ヲ總理ス

主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應ジテ二委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

|      |        |            |       |
|------|--------|------------|-------|
| 一ヶ月分 | 金參拾五錢  | 特等面一頁      | 二等面一頁 |
| 三ヶ月分 | 金貳拾錢   | 廣          | 金貳拾圓  |
| 半年分  | 金貳拾錢   | 一等面一頁      | 以下    |
| 一年分  | 金四圓貳拾錢 | 金拾五圓       | 御斷り   |
| 拾貳冊送 | 金四圓貳拾錢 | 神田區駿河臺ノ三品田 |       |
| 拾貳冊送 | 金四圓貳拾錢 | 廣告社に御申込下さい |       |

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)

昭和十六年四月二十八日印刷納本

昭和十六年五月十一日發行

幼兒の教育 第四十一卷 第五號

不許複製 禁止轉載

編輯 倉橋惣三  
發行所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地  
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地

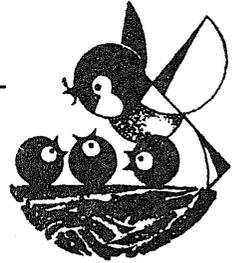
發行所 日本幼稚園協會

東京市小石川區大塚町三十五  
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內  
振替口座東京一七二六六番

注 文 規 定

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。  
一、(郵券代用の場合)には、御送金(振替貯金)で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。  
一、送金の節には、第何卷第何月號より第何月號迄と明記せられたし。  
一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。  
一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたします。其節は早速御送金を願ひます。  
一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

# 目書行發館ルベールフ



最。るけに於に界育保兒幼もれ何は書版出社弊  
 命生と力な撃真るれなに筆執の生先諸威權高  
 すまりあで籍書な的心良たち充に  
 はていに於に界育保兒幼の下制體新時現に特  
 すまりあで以所るす獎推てへ敢と書の携必

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可  
 昭和十六年四月二十八日印刷納本

昭和十六年四月二十八日印刷納本

定價參拾五錢

## 書叢育保

修監生先三惣橋倉

(四六判 1.00 千 6)

|                       |                                      |                                 |                                                |
|-----------------------|--------------------------------------|---------------------------------|------------------------------------------------|
| 編四第                   | 編三第                                  | 編二第                             | 編一第                                            |
| 實<br>驗<br>保<br>育<br>學 | 幼<br>稚<br>園<br>の<br>手<br>技<br>製<br>作 | 自<br>然<br>物<br>お<br>も<br>ち<br>や | 同<br>幼<br>兒<br>の<br>人<br>形<br>芝<br>居<br>脚<br>本 |
| 目白幼稚園園長 和田實先生著        | 東京女高師教諭 及川ふみ先生著<br>同幼稚園保母 園田實先生著     | 膳真規子先生著                         | 東京女高師附屬幼稚園保母 菊地ふじの先生 共著<br>徳久孝子先生 共著           |

### 幼兒性行評定尺度

淡路圓治郎先生著

定價 金六一錢圓

### 幼兒發達檢査

淡路圓治郎先生 牛島義友先生 吉田虎彦先生 共著

定價 金六一錢圓

### 幼稚園律動遊戲曲譜集

附記憶感覺競爭遊戲・動作篇 大阪保育會編

定價 金二圓冊

構成々分を主としたる幼稚園遊戲の保育要諦 大阪市幼稚園共同研究會第六區編  
 第一卷 動作集(金三圓)・第二卷 曲譜集(金二圓)

### 子供の舞踊

石井漢先生著

定價 金二圓五十錢

### シルエツトの作り方

鈴木重章先生著

定價 金六一錢圓

## 食館ルベールフ 社會式株

番二六六三(33)話電・二町保神・田神・京東 社本  
 番七二八三(33)話電・三町保神・田神・京東 社本  
 番八三九一(24)話電・五町後備・區東・阪大 店支